

代表者ニモ非ズトセバ之ヲ一種特別ノ權利者ナリト爲サザルヲ得ズ即チ
保管人ハ法律ニ據リ附與セラレタル權利ヲ代理關係ヨリ獨立セル自己ノ
權利トシテ所有シ其主張ガ債券所有者ニ利益タルニ過ギザルモノトス
之ヲ要スルニ保管人ハ銀行員ニモ非ズ國家ノ代表者ニモ非ズ一個獨立セル
銀行監督ノ機關ナリト稱スルコトヲ得ベシ(註)

註 監理官ト保管人トハ其任務ニ於テ異ナル所多シト雖モ亦相錯綜スル所夥カラス茲
ヲ以テ此兩者ヲ一人ヲ以テ兼シシムルコト肯テ不當ニアラズ第五十一條普魯西中央
土地抵當銀行ノ如キ其一例ナリトス

四 發行ノ極度

帝國土地抵當銀行法ニ據レバ債券發行ハ拂込資本金及損失ノ補填若クハ債
券所有者ノ爲メニスル準備金ノ十五倍ヲ超過スベカラザルモノトス然ドモ
之ニ例外ノ規定ヲ設ケ帝國土地抵當銀行法ノ効力發生前此金額以上ニ債券
ヲ發行スル權利ヲ有シタル銀行ハ抵當債券及輕便鐵道債券ニ在テハ千八百

九十八年五月一日ニ於ケル定款ニヨル資本金ノ二十倍公共團體債券ニ在テ
ハ抵當債券輕便鐵道債券ヲ加ヘ抵當債券發行ノ極度額ヨリ其五分ノ一以上
ノ額迄之ヲ發行スルコトヲ得ベキモノトス(註)

註 普魯西土地抵當銀行法第二條第三項 株式銀行株式合資銀行ハ其資本金ガ壹千萬馬
克以下ナルトキハ現金ヲ以テ拂込ミタル資本金ノ十五倍夫レ以上ナルトキハ二十倍
迄債券ヲ發行スルコトヲ得

第二 發行方法

債券ノ發行ノ成績如何ハ直ニ銀行ノ盛衰ニ關スルヲ以テ普魯西中央土地抵
當銀行ニ於テハ債券發行ノ事ヲ單ニ取締役ノ自由ニ委セズ監查役會ノ決議
ヲ要スルコト、セリ即チ一營業期ニ於テ取締役ガ計算ノ結果及經濟界ノ有
様ヲ觀察シテ幾百萬馬克ノ資金ヲ要シ幾百萬馬克ノ募集ノ見込アリト思考
スルトキハ之ヲ監查役ノ會議ニ付ス監查役會ハ其要否發行ノ一般條件ヲ確
定シ茲ニ募集ニ着手スルモノトス(監理官ニ届出ヲ爲スベキハ勿論トス)註)

註 債券發行ノ法律上ノ性質ハ佛國ニ於ケル解釋ニ從ヘバ一種ノ貸借契約トナシ從テ債券所有者ノ地位ハ貸借契約ノ債權者タルモノナリトナク獨逸國ニ於テハ斯ノ如キ説ヲ唱フルモノハ一般ニ行ハル、説ハ所謂賣買説ニシテ債券發行ノ基礎タルベキ法律行爲——反對ノ約定ガ書面其者ヨリ認メラザル限リ——ヲ以テ賣買ナリト爲スモノナリ故ニ債券所有者ハ買手ニシテ此者ヨリ支拂ハル、金額ハ即チ代價ナリ此説モ亦全ク反對ナキモノニアラズト雖モ債券ヲ以テ一種ノ物ト見做シ之ニ對シ代價ヲ支拂フモノト爲スハ貸借契約説ニ比シ遙ニ能ク一般取引ノ觀念ニ適合スルモノト謂ベシ前解釋ニ從フトキハ貸付金ヲ支拂フニ債券ヲ以テスル場合ニ不可思議ナル結果ヲ生ズベシ即チ債券發行ヲ以テ利息付貸借ナリト解スルトキハ各個債券ハ貸借契約ヨリ生ズル請求權ヲ認メタル書面ニ過ギズ故ニ斯ノ如キ債券ヲ以テスル貸付金ノ支拂ハ今ヤ貸借契約ニヨリ債權者タラントスル發行者即チ抵當銀行ノ發シタル貸付金ノ受領ヲ認メタル證書ノ引渡ニ依リナサル、コト、ナルベシ然ドモ此特殊ナル法律關係ヲ學理上如何ニ解釋スベキヤニ付テハ貸借契約説論者何等説明スル所ナシ

債券ノ發行方法ハ左ノ如シ

一、銀行ガ出納課ニ於テ直接公衆ニ對シ債券ヲ賣却ス其方法ハ物品ヲ商店ニ於テ公衆ニ直接賣却シ又ハ書面ニ依ル注文ニ應ジ賣却スルト何等異ナルコトナシ

二、取引所ニ於テ仲買人ノ媒介ニ依リ賣却ス

以上二方法ハ南部地方ノ混合銀行ニ於テ其支店ヲ利用シテ盛ニ行ハル、所ナリト雖モ北部地方ニ於テハ比較的小額ノ發行ノ場合ニ使用セラル、ニ留リ一時ニ多額ノ債券ヲ發行セントスル場合ニハ他ノ方法ニ據ルモノトス

三、公ナル募集 *Zeichnung* 即チ是レナリ之ヲ行フニハ先ヅ新聞紙ニ發行ヲ廣告シ一若クハ多數ノ信用銀行ト連絡ヲ通ジ其支店及關係銀行ヲ申込所タラシメ之ニ發行趣意書ヲ與ヘ申込證ヲ公衆ニ交布セシムルモノトス銀行ハ申込ニ應ジ債券ヲ割當ツ此場合ニ於テハ援助ヲ與フル信用銀行ハ單ニ發行銀行ノ代表者トシテ行動スルニ過ギザルモノトス

四、引受發行ハ債券ヲ發行銀行ト密接ナル關係ヲ有スル信用銀行ニ賣却

シ信用銀行ハ自己ノ名ヲ以テ其支店ヲ利用シテ公衆ニ賣却スルモノナ
リ此場合ニ在テハ信用銀行ハ發行銀行ヨリ其時ニ於ケル相場ヨリ幾分
低廉ニ債券ヲ購入シ其差ヲ危険ノ引受ニ對スル對價トシテ取得スルモ
ノトス此方法ハ往時ニ於テハ盛ニ行ハレタリト雖モ額面以下ヲ以テ發
行スルノ止ムナキニ至ラシムル場合多キヲ以テ現在ニ於テハ此方法ニ
據ルモノ稀ナリ

五、最モ廣汎ニ行ハル、方法ハ銀行家ノ仲介ニ依ル賣出方法ナリトス銀
行ハ帝國内各地方ニ於ケル多數ノ銀行家ト特約シ銀行家ヲシテ其得意
ヨリ注文ヲ受ケシメ其申込ニ應ジ債券ヲ發送ス又發行銀行ハ屢々銀行
家ヨリ申越ナクトモ豫メ債券ノ一定量ヲ送附シ置キ賣却セシムルコト
アリ此場合ニ於テハ其債券ノ所有者ハ賣却ノ瞬間ニ至ルマデハ發行銀
行タルコト勿論トス(註一)(註二)(註三)

註一 帝國預托法ニ據レバ銀行家モ同法上ノ義務ヲ負擔スルモノトス故ニ銀行家ハ送附

債券ニ一般ニ承認セラルベキ發行銀行ノ記號ヲ附シ他ノ財産ト區別シテ保管スベキ
モノトス且債券ヲ商業帳簿若クハ之ニ附屬スル帳簿ニ各個ニ付詳細ニ記入シ置カザ
ルベカラズ

銀行家ガ破産セル場合ニ在テハ發行銀行ハ預托セル證券ニ付別除權ヲ有スルコト勿
論ナリ然ドモ銀行家ガ未ダ賣却代金ノ支拂ヲ受ケザル場合又ハ銀行家ニ對スル手形
ヲ所有スル場合又ハ債券ヲ横領セル場合又ハ何等發行銀行ニ報告ヲ爲サズ債券ヲ賣
却シテ代金ヲ一時利用スル場合破産ヲ避ケンガ爲メ投機ヲ爲ス場合ノ如キハ殊ニ然
リ等ニ在テハ發行銀行ハ單ニ通常ノ破産債權者タルニ過ギザルモノニシテ善意ノ第
三者ニ對シテハ優先スルコト能ハザルモノトス(第三者ガ銀行家ナル場合ニ在テハ預
托法第八條參照)

註二 銀行家ガ發行銀行ニ對シ支拂ヲ爲スハ或ハ現金ヲ以テシ或ハ發行銀行ノ承認スル
利札若クハ其他ノ證券ヲ以テシ或ハ發行銀行ガ銀行家ニ對シ特別ナル條件ノ下ニ割
引スル手形ヲ以テシ或ハ大銀行ニ於ケル勘定口座ノ振替ニ依ルガ如シ

註三 發行銀行ハ單ニ個人銀行家ノミナラズ多數銀行家若クハ割引所等ト連絡ヲ有スル
信用銀行トモ亦特約スルモノトス

信用銀行又ハ銀行家ハ何等利益ヲ受ケズシテ賣却ノ周旋ヲ爲スモノニアラズ其報酬ハ之ヲ二種ニ區別スルコトヲ得

一、購求者ノ支拂フ手数料 Verkaufsprovision

債券ノ購求者ハ購求ニ際シ賣買手数料ノ名義ヲ以テ相場以外ニ通常千分ノ半乃至一ノ支拂ヲ爲スモノトス

二、特別報酬 Bonifikation

發行銀行ガ媒介者ニ支拂フ報酬ハ種々ノ形式ニ據ルモノニシテ決シテ一様ナラズ或ハ賣却利益ニ準ジ歩合的ノ報酬ヲ與フルコトアリ或ハ新發行ニ際シ仲介者ニ對シテ價格ヲ減ジ或ハ賣却代金ノ引渡ニ特別利益ヲ供シ或ハ引續キ營業上ノ結合ヲ爲ス等ノ特別利益ヲ提供スルコトアリト雖モ額面ニ對スル一定歩合ヲ以テ支拂フヲ一般ノ方法ナリトス而シテ其額ノ如キモ銀行ニ依リ一定セズ或銀行ノ如キハ一半「パーセント」ヲ支拂フモノサヘアリ(註)

註「ボニファイカチオン」Bonifikation ナル名稱ハ一定シタルモノニアラズ或ハ「プロビジョ

ン」Provision トモ稱スルコトアリ帝國土地抵當銀行法第二十五條第三項ハ前者ノ用語

法ニ據ル

債券ノ發行ニ付特別報酬ノ支拂及其額ノ多少ハ債券發行ノ如何ニ關係スルコト大ナルモノニシテ取扱者ハ比較的多額ノ報酬ノ取得ニ依リ債券ノ賣却ニ努力シ債券ヲ購入セントスルモノニ對シ極力債券ノ有利ナルヲ説キ確實ニシテ而モ其利息ニ於テ國庫證券ニ比シ高率ナルコトヲ指示スルヲ以テ一般ノ顧客ハ取扱者ニ信賴シ債券ノ購入ヲ諾スルニ至リ又或銀行ニ在テハ報酬支拂ノ條件トシテ爾後一年間再ビ賣却セラレズトノ制限ヲ附スルモノアリテ(此場合ニ於テハ時ニ依リ割當テラレタル證券若クハ利札ノ寄托ヲ要求ス)報酬ヲ取得セルモノハ債券ガ爾後一年內ニ再ビ賣却セラレタルトキハ自己ノ得タル報酬ヲ銀行ニ返還セザルベカラザルヲ以テ往々債券ノ辯護者トナリ爲メニ其信用ヲ維持スル

コト大ナリ此關係ヲ實例ヲ以テ示セバ千九百六年ニ於テ總土地抵當銀行ノ發行セル債券總額約七億馬克餘ナルニ反シ普魯西國債ハ僅ニ二千五百萬馬克餘ニシテ其發行ニ關シ頗ル困難ヲ感ジタリト云フ元本及利息ノ確實ナル點ニ於テハ土地抵當銀行債券ハ普魯西公債ニ比較スベクモアラズ後者ハ官有地鐵道等ヨリ生ズル收入發行額ノ數倍ニ達シ當時ニ於ケル土地抵當銀行債券發行額七億三千八百八十萬馬克ニ對シ僅ニ七億五千四十萬馬克ノ引當アルニ比シ雲泥ノ差アルニ拘ラズ斯ノ如ク債券發行ノ圓滑ナルハ實ニ取扱者ノ周到ナル媒介ニ職由スルニ外ナラズ又新債券ガ舊債券ニ比シ相場ニ於テ高キヲ示スモ幾分取扱者ノ力ナキニアラズ何トナレバ取扱者ハ新債券ノ發行ニ依リ報酬ヲ得ベキヲ以テ舊債券ノ保護ヲ放擲シ殊ニ禁轉期間滿了セル舊債券アルトキハ盛ニ新債券トノ交換ヲ勸誘シ新債券ニ對スル需要ヲ促進セシムベキヲ以テナリ(註)

註 特別報酬ノ法律上ノ性質ニ付テハ各種ノ疑問アリ殊ニ商法四百一條ニ照シ銀行家ハ得意及發行銀行ノ兩者ヨリ之ヲ受タルガ如キハ不法ナリト爲スモノアリ即チ銀行家ハ得意ニ對シ債券ヲ賣却スルニ自己ノ取得シタル價格即チ特別報酬ヲ控除セル價格ヲ以テセザルベカラザル義務ヲ有スルモノニアラザルカト爲スモノアリ然ドモ此疑問ハ帝國土地抵當銀行法ガ第二十五條第三項ノ規定ヲ設ケ之ヲ以テ適法ナル報酬ト爲シタル今日ニ於テハ最早何等ノ根據ヲ有セザルモノト稱セザルベカラズ又假令此規定ナキモノトスルモ銀行家ハ債券發行ニ際シテ趣意書ヲ撤布シ確實ナル購買者ヲ求ムル等各種ノ行爲ヲ爲スノミナラズ發行銀行トノ間ニ債券ガ一年內ニ轉賣セラルトキハ報酬ヲ返却スルヲ約スルガ如キハ單ニ買入者ヲ待ツニ止ラズ發行ニ付商法第三百九十六條ニ所謂特殊ナル勤勞ヲ爲スモノニシテ之ニ對シ報酬ヲ受クルハ適法ノ行爲ナリト稱セザルベカラズ

又此特別報酬ヲ以テ公債其他投資證券ニ對スル不法ナル競争ヲ爲スモノナリト批難スルモノアリ然ドモ此批難ハ何等ノ根據ヲ有スルモノト認ムベカラズ何トナレバ企業ヲ補助スル中間者ニ或適法ノ利益ヲ得セシムルハ經濟上ノ原則ニ從ヒ之ヲ禁止スベキモノニアラザルノミナラズ法律ハ明ニ此報酬ヲ認メ帝國土地抵當銀行法第二十

五條又帝國聯邦市町ノ如キモ發行ヲ媒介スル銀行ニ報酬ヲ與フルヲ常トスレバナリ殊ニ近時帝國及普魯西國ハ公債ノ發行ニ際シ銀行ニ對シテノミナラズ個人銀行家ニ對シテモ特別報酬ノ形式ヲ以テ報酬ヲ與フルニ鑑ルトキハ以上ノ批難ハ殆ンド論スルノ價值ヲ有セザルモノトス但斯ノ如キ報酬ノ授受ハ經濟上歡迎スベキモノナリヤニ至テハ自ラ別個ノ問題ニシテ抵當銀行ノ自由競争ヲ制限シ特別報酬ニ一定ノ最高限ヲ設クルハ最モ望マシキ所ナリトス一牛「パーセント」ノ如キハ正ニ其額甚ダ高キニ失シ間接ニハ土地所有者ニ損害ヲ及ボスコト鮮少ナラザルベシ

茲ヲ以テ多數抵當銀行ハ屢々相會シテ報酬ニ一定ノ制限ヲ協定セントシタレドモ各銀行ノ反對ニヨリ常ニ成立ヲ見ルニ至ラザリキ而シテ其理由トスル所ハ左ノ如シ

一、小ニシテ信用薄弱ナル銀行ハ其存立ノ爲メ高キ報酬ヲ支拂フ權利ヲ有セザルベカラズ

二、「ミユンデルゲフヘルハイト」ヲ有スル債券ト然ラザル債券トハ別個ニ取扱ハレザルベカラズ

三、債券ヲ公ナル募集ノ方法ヲ以テ發行スル銀行ガ發行ヲ媒介スル銀行ニ對シ支拂フ報酬ニ付テハ何等ノ制限ナシ

斯ノ如クナルヲ以テ之ニ制限ヲ設ケントセバ監督官廳ノ干渉ニ俟タザルベカラズ然ドモ各聯邦ハ自國銀行ヲシテ他國ノ行ニ對シ不利ナル地位ヲ與フルコトヲ欲セザレバ之ヲ爲スニハ帝國協同監督ニ俟ツコト大ナリト雖モ不幸目下其方法ナシ(帝國土地抵當銀行法第三條及國家ノ監督官參照)

普魯西中央土地抵當銀行ハ内外國ニ亘リ個人銀行及株式銀行ヲ包括スル百二十四箇所ノ取扱店ヲ設置シ之ニ萬分ノ二十五乃至三十五ノ報酬ヲ支拂フ方法ニ據ル參考ノ爲メ報酬計算書ヲ示セハ下ノ如シ(註)

註 賣買締結ニ際シ取引證ニ貼用スベキ印稅ハ銀行其半額ヲ負擔ス但手數料ヲ支拂フ場合ニ在テハ發行銀行此印稅ヲ負擔セズ

御依頼ニ依リ千九百七年發行四步中央債券千馬克賣却候間御承知相成度候

千九百八年八月七日

伯林 割 引 銀 行

伯林 普魯西中央土地抵當株式銀行御中

計算書

一金九百八十馬克
 計金九百八十四馬克十片
 一九百七年四步中央債券千馬克
 九十八パーセントニテ
 三十七日間利子

一金三馬克五十片
 報酬(萬分ノ三十五)

一金十片
 郵税

計金三馬六十片

差引金九百八十馬克五十片

發行ニ就テハ一定ノ總額ヲ決定スルト雖モ募集期限ヲ定メズ引當抵當權ノ生ズルニ從ヒ必要ニ應ジ募集又ハ賣出スヲ以テ本邦ニ於テマ、其例ヲ見ルガ如キ未募集ノ殘高ヲ生ズル場合ナシ
 毎回發行高ノ如何ハ各土地抵當銀行ノ事業ノ大小金融ノ繁閑等ニ據テ決定セラルベキ問題ニシテ茲ニ一定ノ率ヲ示スコト能ハズト雖モ當銀行ハ殆ン

ト毎年一定額ノ募集ヲ爲ス元來當銀行ハ他二三銀行ト同ジク據置期間ノ長期ニ亘ルモノアルヲ以テ十年銀行ニヨリ二年ノモノアリ(毎回ノ募集高從テ多キヲ要セズト云フ即チ毎回ノ募集高ハ抵當債券ニ於テ五千乃至六千萬馬克公共團體債券ニ於テ三千萬馬クトス債券ノ額面ハ通常之ヲ五千馬克三千馬克千馬克五百馬克三百馬克及百馬克トナシ長キ經驗ニ依リ次ノ割合ヲ以テ發行ス

種類	額面	枚數	合計金額
甲	五〇〇〇	八〇	四〇〇〇〇
乙	三〇〇〇	二〇	六〇〇〇〇
丙	一〇〇〇	四〇〇	四〇〇〇〇
丁	五〇〇	二〇〇	一〇〇〇〇〇
戊	三〇〇	一〇〇	三〇〇〇〇
已	一〇〇	一〇〇	一〇〇〇〇

公共團體債券ニ在テハ

計	額面	枚數	合計金額
甲	五〇〇〇 <small>馬克</small>	八〇	四〇〇〇〇〇 <small>馬克</small>
乙	三〇〇〇	四〇	一二〇〇〇〇
丙	一〇〇〇	四〇〇	四〇〇〇〇〇
丁	五〇〇	八〇	四〇〇〇〇
戊	三〇〇	一〇〇	三〇〇〇〇
己	一〇〇	一〇〇	一〇〇〇〇
計			一、〇〇〇、〇〇〇

即チ抵當債券ニ比シ乙及丁ニ於テ多少相違アリ是レ公共團體債券ハ普魯西ニ於テ特權ヲ有スルヲ以テ各種ノ基本財産トナルノ便アリ從テ比較的高額ノモノ賣行宜シキ爲ナリト云フ(註)

註 債券額面ニ關スル法律ノ制限ナシト雖モ實際上五十馬克ヲ最下トシ普通額面ハ五百馬克ナリ各國ニ於ケル債券額面ノ法律上ノ最低額ハ本邦二十圓、ウングアルン六十、ゾルデン佛國百、フラン、伊國三十、リラ、露國百、ルーブルナリ普魯西中央土地抵當銀行ハ百馬克以下ノ債券ヲ發行セズ

債券發行ニ付キ社會ノ如何ナル階級ヲ目的トナスヤニ關シテハ別ニ一定ノ目途ナキガ如シ一言ニシテ云ヘバ一般資本家ヲ目途トストイフ外ナシ但土地抵當銀行債券ノ好得意ハ本邦ト同ジク貯蓄機關保險會社等ニアルガ如シ然ドモ千九百年ニ起リタル「スピールハーゲン」土地抵當銀行ノ破産ハ細民ガ其生活費ノ幾分ノ過剩ヲ貯蓄シテ得タル金員ヲ以テ債券ニ放資セル事實ヲ示シタリ

普魯西中央土地抵當銀行ガ公ナル募集ニ際シ確定スル發行價格ハ勿論其時ニ於ケル相場ニ據ルト雖モ普通ノ場合ニ於テハ幾分現在ノ相場以下ニアルガ如シ是レ完全ニ募集ノ目的ヲ達スル上ニ於テ當然ノ事トス千九百七年

債券ニツキ千九百八年七月十二日ノ「フランクフルト」新聞ノ記載スル所ニ據レバ千九百七年柏林「フランクフルト」其他ノ取引所ニ於テ取引債券タル六千萬馬克四歩利附中央債券中千九百八年二千萬馬克ノ公募ヲ爲シタル後同年六月十七日再ビ二千萬馬克ヲ柏林其他ノ場所ニ於テ公募セリ而シテ前回ハ發行價格九十七ト八分ナリシニ反シ今回ハ九十七半ヲ以テ發行セラレタリ此債券ハ百萬圓ヅ、六十組ニ區分セラレ千九百十七年迄据置クモノトス(下略)又千九百八年七月十二日ノ取引所新聞ニ據レバ(前略)今回募集セラル、債券ハ千九百七年ノ六千萬馬克四歩利附中央債券ノ一部ニシテ現在相場ハ九十八三分ナレドモ六月十七日水曜日ヲ以テ發表セル價格ハ九十七半ナリト申込ハ實際ニ於テ各取扱銀行又ハ其他ノ取扱店ニ於テ之ヲ取扱ヒ當銀行ニ向テ直接ニ爲ス場合少數ナリ

引受申込證

番號 千九百七年乃至千九百十七年据量四歩利附無抽籤債券總額二千
萬馬克
普魯西中央土地抵當株式銀行ノ公表セル申込條件ニ從ヒ千九百七年四歩
利附中央債券
金 馬克
ノ申込ヲ爲シ且全額又ハ割當額ノ引受ヲ爲ス義務ヲ負フ

年 月 日

宿 所

姓

名

普魯西中央土地抵當株式銀行御中
番號

普魯西中央土地抵當株式銀行ノ公表セル申込條件ニ從ヒ千九百七年四歩
利附無抽籤中央債券

金 馬克

ヲ申込ミ且擔保トシテ
ヲ寄託セルコトヲ證スル爲メ此證ヲ發行ス
年 月 日 宿 所

行 名

殿

債券ノ公ナル募集ニ付當銀行ノ爲ス公告ニハ下ノ如キ條項ヲ記載シテ債券ノ性質及其應募ノ方法ヲ公衆ニ知ラシムモノトス

- 一、債券ノ特權
- 二、申込及拂込期限
- 三、種類及利率
- 四、募集總額券面金額
- 五、償還年數
- 六、償還方法

- 七、利率支拂ノ時期
- 八、應募最低額
- 九、申込方法
- 十、募入方法
- 十一、證據金處理方法
- 十二、債券發行高
- 十三、銀行資本高拂込高
- 十四、現在財産高
- 十五、注意事項

註 次ニ參考ノ爲メ千八百七十七年發行債券ノ一部二千馬克ヲ九十七年ノ相場ヲ以テ募集

シタル當銀行募集公告ヲ示ス

千九百十七年乃至千九百十七年據置無抽籤四歩利附中央債券ノ中

金二千萬馬克募集公告

第九章 債 券

千八百七十年三月二十一日普魯西國王陛下ノ敕許ニ依ル特權ニ基キ發行ス
 此募集ニ提供セラレタル額ハ千七百七十七年七月十三日官報ヲ以テ發表セル公告ニ基キ
 伯林、フランクフルト、アム、マイン、ケルン、ドレスラウ、ドレスデン、ハムブルヒ、ライプチヒ
 及「ミュンヘン」ノ各取引所ニ於テ取引ノ目的タルコトヲ許サレタル千九百七十四年四步利
 附無抽籤中央債券ノ一部ヲ構成ス

募集高 二千萬馬克
 期 日 千九百八年六月十七日
 發行價格 九十七半

七月一日以前ノ拂込ニハ拂込日ヨリ六月三十日ニ至ル迄ノ利息ヲ拂込金額中ヨリ控
 除シ七月一日以後ノ拂込ニ在テハ七月一日ヨリ取引ノ日マデノ利息ヲ加算シテ拂込
 マルベシ

取扱店
 伯林 普魯西中央土地抵當株式銀行
 同 割引銀行理事局
 同 「ブライヒローダー」

「フランクフルト、アム、マイン」 割引銀行理事局
 「ケルン」 「エス、オツペンハイム」父子商會
 「ドレスラウ」 「イー、ハイマン」
 同 「ゲー、フォン、バハリース、エンケル」
 同 「シレヂヤ」銀行組合
 「ドレスデン」 全獨逸信用所
 「ハンブルヒ」 「チエ、ペーレンス」兄弟商會
 同 「ハンブルヒ」北獨逸銀行
 同 「エム、エム、ツールブルグ」商會
 「ライプチヒ」 「ハンマー、ウインド、シミット」
 同 全獨逸信用所
 「ミュンヘン」 「バイエルン」商工銀行

尙ホ其他ノ申込所ニ於テ營業時間内申込ヲ受クベシ
 申込ノ際申込金額ノ五歩ノ證據金トシテ現金又ハ申込所ガ承認セル有價證券ヲ以テ
 支拂ハルベシ

募入分配ハ申込所ノ決定ニ從ヒ分配ノ際ニ要スル印稅ハ申込者其半額ヲ負擔セラルベシ

債券本證券ハ本年六月二十六日ヨリ七月三十一日迄ノ間ニ於テ交付ス
中央債券ハ券面五千馬克三千馬克五百馬克三百馬克及百馬克ニシテ一月七月
拂ノ利札ヲ附ス此債券ハ帝國銀行第一級擔保品ナリ

債券所有者ハ債券償還ヲ催告スルコトヲ得ズ之ニ反シ銀行ハ千九百十七年一月一日
以後償還ノ爲メ催告ヲ爲スコトヲ得ベシ催告ヲ爲ス場合ニハ一月二日又ハ七月一日
ニ之ヲ爲シ且三回公告ヲ爲スベシ催告ハ全債券若クハ各組債券ヲ目的トス一組債券
ノ催告ニ在テハ其組ノ番號順ニ依ル

此債券ニ付テハ抽籤ニ依リ償還スル方法及一定ノ期間内ニ償還スル方法ヲ採川セズ
當銀行ハ千八百七十年商業登記簿ニ登錄セラレタリ銀行ノ代表機關ハ頭取一人取締
役三人ヨリ成ル是等ハ監査役ニ依リ選舉セラル選舉ハ普魯西國王陛下ノ勅許ヲ要ス
政府ノ監督ニ付テハ農務大臣ノ指揮ノ下ニ監理官ヲ置カレ監理官ハ隨時帳簿證書書
類及銀行ノ狀態ヲ調査シ又銀行ヨリ報告書ヲ提出セシムル外監査役會ニ列席スル權
利ヲ有シ且同時ニ保管人ノ職務ヲ委任セラル

千九百八年五月三十日ノ現狀

拂込資本金

三九六〇〇〇〇馬克

抵當權

六九一、六七四、七九三、七七

公共團體貸付

一二九、八六一、四九二、〇五

中央債券流通高

六五九、七三〇、五五〇、〇〇

公共團體債券流通高

一二二、四五六、八〇〇、〇〇

債券元利金支拂ヲ確保スル爲メニ抵當權登錄簿ニ登記セラレタル債權ノ引當アリ監
理官ハ抵當債權ニ關スル證書ヲ保管シ該證書ハ帝國土地抵當銀行法ノ規定ニ據ルニ
非ザレバ返還セラレズ銀行ハ抵當權登錄簿ニ登錄セル債權ヲ引當トセズシテ債券ヲ
發行スルコトナシ銀行ハ唯繼續的確定タル收益アル土地ニ對シテノミ通常第一抵當
權ヲ取得シテ土地價格ノ五分ノ三以下ノ貸付ヲ爲ス耕地ニ在テハ價格ノ三分ノ二以
下ノ貸付ヲ爲ス但土地所有者ノ所屬聯邦ノ中央官廳ノ許可スル場合ニ限ル
貸付ニ際シ評定セラレベキ土地價格ハ精密ナル鑑定ニ依リ確定セラレタル賣買價格
ヲ超過スルコトナシ此價格ノ確定ニ際シテハ土地ノ繼續的ノ性質及通常ノ場合ニ於
テ如何ナル所有者ニモ繼續シテ生ズル收益ニ基テ算定ス

第九章 債券

千九百八年六月

伯林

普魯西中央土地抵當株式銀行

八四六

頭取	「フオン、クリツチンダ」
取締役	「シ、ツ、ル、ツ」
同	「リ、ン、デ、マ、ン」
同	「リ、ユ、ー、ベ、ツ、ク」

申込ヲ爲サントスルモノハ申込書空欄ニ必要事項ヲ記入シ普通申込金額ノ五歩ノ證據金ヲ現金又ハ申込所ノ承認スル有價證券ヲ以テ添付シ之ヲ申込ムモノトス而シテ其募入方法ハ各取扱店之ヲ決ス

引受債券ニ對スル拂込ハ何等明文ヲ存セザル限リ引受債券全部ヲ同時ニ拂込マシムルヲ以テ債券ノ性質上當然トスベシ然ドモ銀行ハ實際目下多額ノ金額ヲ必要トセズ(例ヘバ貸出ノ如キモ漸次ヲ以テスルモノナレハ同時ニ多額ノ資金ヲ必要トセザル場合多シ)又目下必要トセザルモ幾箇月ノ後ニ於テ必要トスル場合アルベシ此場合ニ一時ニ之ガ拂込ヲ爲サシメズ漸次必要ニ

應ジ拂込マシムルコトヲ得ハ銀行トシテ便利ナルノミナラズ引受者ニ於テモ引受債券拂込上至大ノ便利ヲ得ルコト、ナルベシ故ニ當銀行ハ一方法ヲ設ケ引受各債券ハ必ズ各券面全部ノ拂込ヲ了セザルベカラズ然ドモ必ズシモ引受債券全部ヲ同時ニ拂込ムコトヲ必要トセザルコト、ナセリ千八百九十年十一月十二日四歩利附債券千五百萬馬克ノ募集ニ際シ其一條件トシテ左ノ規定アリ

引受申込者ハ千八百九十年十一月三十日以後引受價格百二十ノ割合ヲ以テ左記ノ通ノ支拂ヲ爲シ之ニ對スル募入債券又ハ定款ノ規定ニ據ル債券假證ヲ受取ラルベシ但募入債券額ガ一萬二千馬克以下ナルトキハ此方法ニ據ラズ千八百九十年十二月十日迄ニ全部ノ拂込ヲ了シ債券又ハ假證ヲ受取ルベキモノトス

一募入債券數ノ五分ノ二 千八百九十年十二月十日迄

一同 五分ノ二 千八百九十一年一月十二日迄

一募入債券數ノ五分ノ一

千八百九十一年二月十二日迄

債券發行ニ至ルマデノ取扱手續ヲ述ブレバ引當財團其他發行條件完備スルトキハ茲ニ初メテ債券ノ作成ニ着手スルナリ(註)

註 帝國民法第七百九十五條刑法第四百十五條(イ)ニ從ヘバ無記名證券ヲ發行セントセバ聯邦政府ノ認可ヲ得ザルベカラズ此規定ニ違反スルトキハ刑法ニ照シ處罰セラレベシ其認可ハ包括的ニ與フル所アリ又個々ノ場合ニ與フル所アリ(バイエルン)國ノ如キハ後者ノ例ナリ

即チ先ヅ其文言形式ヲ定メ之ヲ印刷ニ附シ之ニハ取締役ノ記名アリ之ニ印稅ノ押印ヲ求メ(註一)監理官ノ手許ニ送附シテ規定上ノ引當ノ存在スル保證ノ記入ヲ得(註二)之ニ帳簿番號ヲ附シ然ル後債券及利札ヲ別々ニ取締役及出納課ニ於テ保管シ必要ニ應ジ之ヲ交付スルモノトス

註一 千九百九年七月二十五日ノ帝國印紙稅法ニ據レバ債券及之ニ附屬スル利札ハ其發行前印紙稅ノ支拂ヲ爲サレベカラズ其方法ハ通常債券及利札ヲ稅務署ニ提出シテ其上ニ押印ヲ乞フモノトス印紙稅率ハ債券ニ在テハ千分ノ五(債券稅十年間ノ利札

ヲ有スル紙片ニ對シテハ千分ノ二トス但最初十年間ノ利札ハ無稅トス(タロソ)稅以上印稅ハ銀行之ヲ負擔スルヲ常トス即チ債券稅ニ在テハ銀行之ヲ負擔シ購入者ハ單ニ相場價格ヲ支拂フヲ一般慣習トス又之ト同様利札新發行ニ付所有者ニ何等負擔ヲ加フルコトナキヲ一般慣習ト爲スノミナラズ(ロソト)控訴院ハ此問題ニ付利札稅ノ負擔ハ發行者ノ法律上ノ義務ナル旨ヲ判決セリ(千九百十年十一月二日)ベルリナ、ターグブラット夕刊九百五十八號參照

註二 監理官ニ依ル登錄簿ノ記入ハ印刷後直ニ之ヲ爲スヲ通常トス是レ印刷所ヨリ交付セラレタル債券監督上必要アレバナリ

斯ノ如クシテ保管セラル、債券ハ其保管ノ間ハ勿論流通債券勘定ニ算入セラルベキモノニ非ズシテ單ニ債券勘定中ニ記入セラレ賣却ノ日ヲ以テ流通債券勘定ニ記入セラルベキモノトス何トナレバ債券ハ銀行ノ手中ニ在ル間ハ一ノ書類タルニ止マリ第三者ガ之ヲ取得シタルトキニ初メテ其効力ヲ發生スレバナリ(引渡說)

債券ハ其發行前之ヲ取引所ニ上場シ或ハ表上ノ形勢ヲ窺フモノナルヲ以テ

債券ト取引所トノ關係ニ付略説スルノ必要アリ

債券ヲ如何ナル取引所ノ取引ニ供スベキヤハ銀行ノ自由ニ決定スベキ問題ナリ銀行ヨリ云ヘバ獨逸全國ノアラユル取引所ニ上場スルヲ以テ最モ好都合ナルベシト雖モ之ヲ爲スニハ相當ノ費用ヲ要シ且各取引所ニ於ケル債券相場ノ監督ノ爲メ連絡銀行ヲ必要トシ是等ニ就テモ亦出費ヲ要スルヲ以テ實際上ハ債券ノ主タル販賣區域ニ從ヒ取引所ヲ決定スルヲ常トス

債券ヲ取引所ニ上場スルニ就テハ取引所法第三十六條乃至第四十九條並ニ千九百十年七月四日有價證券ノ取引所取引ノ許可ニ關スル帝國總理大臣布告及各取引所ニ於ケル取引所規約及手数料規則ニ詳細ナル規定アリ

取引所法第三十六條以下ニ從ヘバ發行債券ヲ取引所ニ表上セシメントセバ先ヅ目論見書 Prospect ヲ作成シ公衆ニ債券ノ如何ナルモノナルヤヲ知ラシメサルベカラズ目論見書ニハ企業ノ目的貸付規則債券ノ本質等ニ付詳細ナル記述ヲ爲サルベカラズ故ニ貸借對照表中二三數字ノ外又土地抵當銀行

法中四五ノ規定ヲモ記載セザルベカラズ第四十條ニ從ヘバ聯邦政府ハ目論見書ヲ毎回作成スルコトヲ要セザル旨ヲ規定スルコトヲ得ルモノニシテ普魯西ニ在テハ以前屢々作成ノ免除ヲ爲シタルコトアリシト雖モ近來ハカ、ル免除ヲ與ヘタルコトナシ

取引所規約ニ從ヘバ債券ヲ取引所ニ上場スルニハ一定ノ數量ヲ以テセザルベカラズ但此一定量ハ必ズシモ其際ニ現存スルコトヲ要セザルモノトス銀行側ヨリ云ヘバ此點ニ關シ何等制限ナキヲ以テ最モ便宜ト爲スベシト雖モ取引所規約ハ上述ノ制限ヲ設クル結果多數銀行ハ殆ンド毎歲新ニ表上手續ヲ履行セザルベカラザルノ不便アリ且取引所取引ヲ許可セラルベキ爲メニハ其數額ガ額面ニヨリ特定セラレタル最小額ニ達シタル場合ナラザルベカラズ而シテ其最小額ハ伯林「フランクフルト」ハ「ハンブルグ」ニ於テハ百萬馬克其他ニ在テハ五十萬馬克トス(取引所法第四十四條及布告)

債券ノ表上相場 Einführungskurs ハ銀行之ヲ決定ス此相場ハ其時ニ於ケル一般

ノ債券相場ニ據リ決定セラルベキモノトス
債券ノ表上費用ハ例ヘバ伯林取引所手数料規則ニ從ヘバ百萬馬克毎ニ百馬克最高二千馬克トス

取引所取引ヲ許サレザル債券及公ナル募集ニ着手シ未ダ終了セザル債券ハ取引所法第四十三條ニ從ヒ相場表ニ登載セラレザルモノトス
以上ノ如クシテ債券ハ表上審査會 Zulassungsstelle ノ取引及登載ノ認可ヲ經茲ニ初メテ相場表ニ登載セラレ仲買人ノ媒介ニ依リ取引所ニ於テ賣買セララルモノトス

相場表ニ登載セラレタル相場ハ商法第三百八十四條及第四百條ニ從ヘバ債券ノ賣買ヲ仲介スル銀行家ガ得意ニ對シ計算シ得ル最高相場ナリ銀行家ガ此相場以上ノ價格ヲ以テ計算シ得ル場合ハ自己ノ所有ニ屬スル債券ヲ仲介行爲ニ依ラズ賣却スル場合ニ限ルモノトス然ドモ此場合ニ於テモ亦主トシテ取引所相場ガ其標準トナルベク殊ニ發行銀行自身ガ債券ヲ賣却スル場合

ニ於テハ之ニ據リ決定セザルヲ得ザルベキヲ以テ取引所相場ハ事實上取引所ノ内外ヲ問ハズ債券價格ノ標準ヲ爲スモノト稱スベシ故ニ債券相場ノ高低ハ債券發行ニ付重大ナル價值ヲ有スルモノナリ
債券ノ相場ニ影響スル各種ノ事情ヲ舉グレバ左ノ如シ

一、第一級放資有價證券ノ利率ニ對スル當該債券ノ利率ノ關係

債券ハ帝國公債内國債並ニ大市町債ト同等放資物トシテ最モ確實ナリト信ゼラル然ドモ其相場ハ常ニ小市町債ト同様公債ヨリ幾分低キヲ普通トス即チ同利率ノ公債ニ比シ一乃至二パーセント低キヲ常トス

二、發行銀行ノ勢望

發行銀行ノ勢望ノ多少ハ債券相場ニ影響スルコト勿論ナリ且勢望ノ如何ハ帝國銀行貸付資格及未成年者財産放資々格ヲ決定セシムル標準トナルベシ

三、「ブレミ」ニ對スル豫見

四、償還ノ時期

殊ニ債券ノ額面以上ノ相場ニ在テ最モ影響大ナルモノナリ即チ次年ニ催告セラルベキ債券ハ翌年ノ催告ノ時ニ際シテハ百パーセントノ價格ナルベキヲ以テ前年ニ於テハ高率ノ利息ヲ有スル場合ナリトモ猶九年後ニ催告セラルベキ債券ニ比シ百二パーセントノ相場ニ上ルコト至難ナルベシ

五、報酬 Bonification

第三 借換發行

債券ノ借換發行ハ金利低落セル場合ニ高利ノ債券ヲ一時ニ償還センガ爲メ低利ノ債券ノ發行ヲ爲スモノナレバ高利ノ債券所有者ハ之ニ因テ不利ナル地位ニ置カル、事トナルノミナラズ之ヲ大仕掛ニナストキハ率テ惡影響ヲ經濟界ニ及ボスコトナキニシモ非ズ即チ公共團體官公吏寡婦未成年者ノ如キモノハ其財産ヲ多ク第一級有價證券例ヘバ土地抵當銀行ノ債券等ニ投資

スルヲ以テ此債券ノ借換ニヨリ多少其收入ヲ減少スルノミナラズ僅少ノ收益ヲ以テ満足スルコトヲ欲セザルモノハ借換ノ結果其財産ヲ比較的安固ナラザルモノニ投資シ元利金ノ亡失ヲ生ジ經濟界ニ惡影響ヲ與フルコトナキニアラズ然ドモ一方ヨリ見レバ借換ハ經濟界ニ於テ資本利子下落勞銀昇騰ノ標識ニシテ一般ノ希望ニ從ヒ生産的階級ノ爲メニ借換ヲ完成スルモノト稱スルコトヲ得ベキモノニシテ殊ニ土地信用組織或ハ債券發行組織ニ在テハ最モ重要ナル事項ナリトス土地抵當銀行ハ其任務トシテ土地所有者ニ出來得ル限り低廉ナル融通ヲ爲スベキモノナルヲ以テ一般市場ノ狀況ニシテ以前ニ發行セラレタル高利ノ債券ヲ除去シテ低利ノモノヲ以テ補充スルコトヲ得ンカ固ヨリ之ニ努ムベキハ當然ノ任務ナリ若シ土地抵當銀行ニシテ斯ル好時期ヲ空過シ從テ貸付利子ノ低減ヲ計ルノ機會ヲ逸セシムルトキハ是レ實ニ土地抵當銀行ノ任務ノ遂行ヲ忘却セルノ誹ヲ免レザルベシ故ニ多少債券所有者ニ不利ヲ蒙ラシムルコトアルモ亦止ヲ得ザルコト、云フベク

又債券所有者ニ在テモ債券利率ノ低減ガ一般金利ニ相當シ之ト同種類ノ有價證券ノ新發行ガ此低減セラレタル債券利率以上ニ出デザル範圍ニアルトキハ借換ハ必ズシモ債券所有者ニ對シ不正ノ損害ヲ被ラシメタリト稱スベカラズ

債券ノ借換ニ餘リ長キ時日ヲ要スル場合ニ在テハ金融市場ガ再ビ悲境ニ陥ルノ危険ヲ豫想セザルベカラズ而シテ若シ一度斯ル悲境ニ陥ランカ借換ノ實行ヲ一時中止スルノ已ムヲ得ザルニ至ルベク又之ニ反シ金融市場好境ニ向フノ時ニ在テモ借換ニ長期間ヲ要スルトキハ迅速ニ債務者ノ貸付利率引下ゲノ希望ニ應ズルコト能ハザルベシ何トナレバ銀行ハ先ヅ流通債券ノ利率引下ゲヲ實行シタル後ニ非ザレバ債務者ニ満足ヲ與フルコトヲ得ザレバナリ然ドモ斯ル場合ニ於テ銀行ガ債務者ノ貸付利率引下ゲノ請求ニ應ゼザランカ債務者ハ皆其債務ヲ催告シ且之ヲ返還シ他ニ向テ借換ヲ試ムベシ斯ノ如クシテ銀行ハ其繼續的ニシテ健康ナル發達ヲ阻害セラル、ニ至ルベシ

之ニ由テ觀レバ借換ハ單ニ土地信用組織ニ對スル問題タルノミナラズ債務者ニ對シテモ重大ナル關係ヲ有スルコトヲ否ムベカラズ

借換ノ方法ハ土地ノ負擔ヲ輕減シ土地所有者ノ經濟上ノ危機ニ際シ重要ナル救助ヲナスノミナラズ率テ一般ノ金利ノ低落ヲ促進シ一般金利ノ低落ハ再ビ抵當貸付利子ノ輕減ヲ來サシム

普魯西中央土地抵當銀行ハ高利ノ債券ヲ償還スル爲メニ度々債券ノ借換發行ヲ行ヒタリ即チ千八百八十四年ヨリ千八百九十四年間ニ至ル高利附債券多キ期間ニ爲シタル借換ハ次ノ如シ

普魯西中央土地抵當銀行債券借換表 (自千八百八十四年至千八百九十四年)

借換年月日	債券		借換債券		(前年/末日) 第二欄/債券 流通/高	借換請求額	借換額	抽籤額	月	年
	利率	償還	利率	償還						
一〇、一八八四	五、〇〇	一〇〇	四、〇〇	一〇〇	四八、三七五、四〇〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇	二〇、九二六、一〇〇	一、八七七、七〇〇	七	一、八八五
一〇、一八八五	四、五〇	一〇〇	四、〇〇	一〇〇	九三、八五九、〇〇〇	七、六八一、〇〇〇	六、二〇六、二〇〇	九六一、九〇〇	七	一、八八六
一〇、一八八六	五、〇〇	一〇〇	四、〇〇	一〇〇	一三、七二九、三五〇	一三、七二九、三五〇	一〇、七八九、九〇〇	二、九三九、四五〇	七	一、八八七
一〇、一八八七	五、〇〇	一〇〇	四、〇〇	一〇〇	九、六五八、二〇〇	五、五〇、九五〇	四、五六二、二五〇	九五、七〇〇	七	一、八八八
一〇、一八八八	四、五〇	一〇〇	四、〇〇	一〇〇	五、四〇〇、八〇〇	三、五五三、五〇〇	二、八九七、八五〇	六八五、六五〇	七	一、八八九
一〇、一八八九	五、〇〇	一〇〇	四、〇〇	一〇〇	九、六五八、二〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	四、五七九、六五〇	一九一、八、五〇〇	七	一、八九〇
一〇、一八九〇	四、五〇	一〇〇	三、五〇	一〇〇	五、四〇〇、八〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	三〇、九〇五、五五〇	一九一、八、五〇〇	一	一、八九一
一〇、一八九一	五、〇〇	一〇〇	三、五〇	一〇〇	三、九三六、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	五、九四〇、〇〇〇	六〇六、〇〇〇	一	一、八九二
一〇、一八九二	四、五〇	一〇〇	三、五〇	一〇〇	一、九二四、六〇〇	三、三〇〇、〇〇〇	一、八九二、一〇〇	一、四〇七、九〇〇	一	一、八九三
一〇、一八九三	五、〇〇	一〇〇	三、五〇	一〇〇	三、五九四、〇〇〇	三、八七五、〇〇〇	二、四七一、三〇〇	一、四〇三、七〇〇	一	一、八九四
一〇、一八九四	四、五〇	一〇〇	三、五〇	一〇〇	二、五九四、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	四、一三四、八〇〇	二、八六五、五〇〇	七	一、八九五

以上ノ表中借換ニ關シ銀行及債務者ニ取リテ最モ困難ニシテ且最モ其必要ヲ見タルモノハ百十馬克ヲ以テ返還スベキ所謂歩増債券四歩五厘及五歩利附八千三百五十一萬七千七百馬克ノ借換ナリ千八百七十年頃ニ於テハ土地抵當銀行ハ多額ノ貸出申込ニ對シ資金ノ調達ノ必要切實ナリシト資本家が猶能ク債券ヲ知ラザリシ結果トニヨリ歩増金債券ノ發行ヲ爲シタルコト尠カラズ然ドモ其後ニ至リ引續キ金利低落シタルヲ以テ銀行ハ債務者ノ利益ノ爲メニ五歩及四歩五厘利附歩増金債券ノ償除ヲ必要トシタルヲ以テ當該債券ノ支拂ニ充ツベキ抵當貸付ノ債務者ヲシテ其借換ニ參加セシメ之ヲシテ借換費用ノ外一割ノ割増金ヲ支拂ハシムルコトナシ以テ其借換ヲ斷行セリ而シテ多クノ場合ニ於テ銀行ハ債務者ヲシテ借換ニ參加スルコトヲ容易ナラシメンガ爲メ此一割ノ歩増金及借換費用ヲ現金ヲ以テ支拂ハシメズ之ヲ全部或ハ一部貸付金ニ就キ既ニ支拂タル元金償還金ニ依テ差引シ尙足ラザルトキハ新貸付金元金償還ノ始期ノ延長ニ依テ充當セシムルコト、ナセ

リ而シテ一方出來得ル限リ迅速ニ借換ト相應ジテ從來ノ年賦金額ヲ低減シ且一方ニ於テ年賦金低減ノ爲メニ新貸付金元金償還ノ始期ヲ著シク遅延セシムル結果ヲ生ズル場合ニハ舊年賦金ヲ新貸付金元金償還ノ始期ニ至ル迄持續シテ支拂ハシムルコト、シタリ

借換費用及割増支拂金ハ借換ノ範圍ノ大ナル丈ケ高額ニ昇リタリ上記表中第四番乃至第十三番若クハ十四番ノ場合ニ於テ前者ニ在テハ七百四十萬馬克後者ハ四百八十六萬馬克ノ高額ヲ示セリ而シテ普魯西土地抵當銀行法(第八條)ニヨレバ是等ノ費用ニ充當スベキ元金年賦償還ノ始期マデ銀行ニ支拂ハル、金額ハ貸借對照表借方(資産)科目相場較差ノ下ニ記載シ得ルヲ以テ從テ此科目ハ大ナル借換ヲ爲スニ從ヒ其額ヲ増大シタリ即チ千八百八十三年ニハ百八十九萬三千二百七十九馬克千八百八十九年ニハ四百八十八萬二千二百四十馬克ヲ示シ千八百九十年ニハ借換ノ實行ナカリシヲ以テ二百三十九萬五千六百三馬克ニ低下セリ

尙同行ガ今日ニ至ル迄ナシタル借換中最モ大ナルモノハ千八百九十四年四歩利附債券ノ借換ナリトス當時銀行ハ此借換ガ時機ニ適セルモノナルヤ否ヤヲ講究シ聊カ躊躇シタリシト雖モ借換ラルベキ債券ハ其發行條件ニ依リ若シ此期ヲ過グルトキハ又滿一箇年ノ延期ヲ要スルヲ以テ此間ニ金利市場ノ悲境ニ陥ルコトアランヲ慮リ茲ニ即時借換ヲ斷行シ上記ノ表ニ示ス如ク千八百九十四年ニハ凡一億二千二百萬馬克ノ債券ノ借換又ハ抽籤ヲナシタリ而シテ此借換ヲ爲スニ際シ銀行ハ債務者ノ一部分ニ對シ凡一億一千六百萬馬克ノ額ヲ以テ四歩ノ費用ヲ引受タルノ條件ノ下ニ借換ニ參加スベキコトノ申出ヲ爲シタリ此參加ニ依テ債務者ハ償還元金ノ外ニ利子トシテ三歩四分ノ三ヲ支拂ヘバ足ルコト、ナリ甚ダ利益ナルヲ以テ即時ニ申込額七千萬馬克ニ達セリ

此外猶催告又ハ抽籤償還ヲ實行スルコトヲ得ザル四歩利附債券ニ對シテハ其金額ニ相當スル利率以上ノ抵當權ヲ留保シテ引當トシ是等ノ引當ニハ主

トシテ借換參加ヲ拒絕シタル債務者ノ債權ヲ以テ當ツルコト、シタルヲ以テ一度借換申込ヲ拒絕シ後日ニ至リ催告ニ關スル制限ニ拘ラズ返済セントスル債務者ノ請求ヲ拒絕セザルベカラザルコト、ナレリ但例外トシテ債務者ガ四歩利附債券ヲ取引所ニ於テ其相場ニ從ヒ購入スルニ足ルベキ金額ヲ支拂タル場合ニハ返済ヲ承諾セリ

第四 様式

債券ハ監査役ノ定メタル雛形ニ據リ監督官廳ノ認可ヲ得テ發行スルモノニシテ之ヲ無記名トシ頭取若クハ取締役ノ二名之ニ署名シ且規定上ノ引當アル旨ノ検査役及保管人ノ保證ヲ具フ

(表面)

千九百三年發行四歩利附

千九百十二年迄無催告

金千馬克

普魯西中央土地抵當株式銀行

印紙

普魯西中央土地抵當株式銀行

無抽籤

四歩利附抵當債券

千九百三年發行

千八百七十年三月二十一日普魯西國

王陛下ノ勅許ニ依ル特權ニ基キ發行ス

抵當債券

第二十八組丙號一一一八七番

金千馬克

帝國本位價
1,000
馬克

帝國本位價
1,000
馬克

普魯西中央土地抵當株式銀行ハ此抵當債券所持人ニ對シ定款第八十一條ニ規定セル義務ヲ負ヒ且保證ヲ爲ス

金千馬克 利息年四歩

抵當債券ハ所持人之ヲ催告スルコトヲ得ズ普魯西中央土地抵當株式銀行

ハ千九百十二年一月二日以後之ヲ催告スルコトヲ得銀行ガ何等催告ヲ爲
サザル場合ニ於テハ債券ハ千九百六十三年一月二日ヲ以テ満期トナリ額
面ヲ以テ償還セラルベシ精細ナル條件ハ之ヲ裏面ニ記載ス

伯林千九百三年一月二日

取締役

監査役

抵當債券ニハ抵當權登録簿ニ登記セ

印章

抵當債券ニハ定款上ノ抵當權ノ引當

ヲレタル抵當權ノ規定上ノ引當アリ

アルコトヲ保證ス

伯林千九百三年十二月九日

調査員

伯林千九百三年十二月九日

監理官

検査役

登録簿第百三番丙號一一一八七ニ登記ス

(裏面)

定款拔萃

第六十條

省略

第七十條

省略

第八十條

省略

第八十一條

省略

債券發行條件

- 一 抵當債券ハ何等豫メスル催告ナク千九百六十三年一月二日ヲ以テ満
期トナル普魯西中央土地抵當株式銀行ハ千九百十二年一月二日以後債
券全部若クハ各組ヲ六箇月ノ催告期間ヲ以テ催告スルコトヲ得ベシ但
銀行ハ催告ヲ爲スニハ常ニ一月二日若クハ七月一日ニ於テ之ヲ爲ス
- 二 債券ハ之ヲ五十組ニ分チ各組總額金百萬馬克トス

- 三 抵當債券額面ハ五千馬克三千馬克千馬克五百馬克三百馬克及百馬克ノ各種トス
- 四 全債券若クハ各組ノ催告ヲ爲スニハ催告ヲ受クベキ組ノ記載ヲ以テ三回之ヲ銀行ノ公告ヲ爲ス新聞ニ公告スベキモノトス第一回公告ハ償還期ノ前月即チ六月若クハ十二月ノ最後ノ八日內ニ之ヲ爲スベキモノトス滿期日以後ハ債券ニ利息ヲ附セズ
- 五 償還ハ額面ヲ以テ催告セラレタル抵當債券滿期ニ至ラザル利札及利札引換證引換ニ之ヲ爲ス
 欠缺員利札アルトキハ之ニ對スル金額ヲ元金ヨリ控除ス

(表面)

千九百八年發行四步利附 無催告
 普魯西中央土地抵當株式銀行 金千馬克



普魯西中央土地抵當株式銀行
 無抽籤
 四步利附公共團體債券
 千九百八年發行
 千八百七十年三月二十一日普魯西國王
 陛下ノ勅許ニ依ル特權ニ基キ發行ス
 公共團體債券



第七組丙號二六一六番

普魯西中央土地抵當株式銀行ハ此公共團體債券所持人ニ對シ定款第八十
 四條ニ規定セル義務ヲ負ヒ且保證ヲ爲ス

金千馬克 利息年四步

公共團體債券ハ所持人之ヲ催告スルコトヲ得ズ普魯西中央土地抵當株式

銀行ハ裏面記載債券發行條件ニ從ヒ額面ヲ以テ償還スルコトヲ得ベシ

取締役

監査役

此公共團體債券ニハ法律ノ規定ニ從ヒ

當該監督官廳ノ認可ニ依リ普魯西國內

公法上ノ公共團體ニ對スル貸付金ニシ

テ公共團體貸付金登錄簿ニ登錄セラレ

タル貸付金ノ引當アリ

印章

此公共團體債券ニ對シ定款上ノ引

當存在スルコトヲ保證ス

伯林千九百八年四月六日

伯林千九百八年四月六日

検査役

調査員

監理官

登錄簿第五十一番丙號第二六一六ニ登記ス

(裏面)

定款ノ沿革

第六十條

省略

第八十三條

省略

第八十四條

省略

債券發行條件

一 債券ハ之ヲ組ニ分チ各組總額金百萬馬克トス

二 公共團體債券額面ハ五千馬克三千馬克千馬克五百馬克ノ各種トス

三 公共團體債券ハ所持人ノ之ヲ催告スルコトヲ得ズ銀行ハ千九百十七年

以後債券ノ償還ヲ催告スル權利ヲ有ス償還ノ催告ハ常ニ七月一日若ク

ハ一月二日ニ之ヲ爲スベク且之ニ就キ三回ノ公告ヲ爲サルベカラズ

而シテ其一回ハ償還期ノ前月即チ一月若クハ七月ノ初メノ八日迄ニ之

ヲ爲スベキモノトス償還ノ催告ヲ爲スニ當テハ全債券又ハ各組ヲ其目

的トス各組ヲ目的トスル場合ニハ第一組ヨリ初ムルモノトス催告ニ關
スル公告ハ帝國官報並ニ債券ノ取引セラル、取引所新聞ニ公告ス滿期
日以後債券ニ利息ヲ附セズ

四 還債ハ額面ヲ以テ催告セラレタル公共團體債券滿期ニ至ラザル利札
及利札引換證引換ニ之ヲ爲ス
欠缺利札アルトキハ之ニ對スル金額ヲ元金ヨリ控除ス

註一 債券ハ回数ニ依リ色ヲ定メズ唯金額ニ依リテ色ヲ異ニシ利札ハ年ニ依リ其色ヲ
異ニス而シテ利札ハ債券ト同一紙ヲ成サズ

註二 債券ハ通常無記名式ヲ以テ發行スルモ一定ノ手数料ヲ支拂ヒ之ヲ記名ト爲スコ
トナ得

債券利札及引換證ノ時効毀損滅失等ニ就テハ株式ニ關スル規定ヲ適用ス(定款第十九
條第二十條參照)

債券發行ニ際シ多額ノ債券ヲ短時間ニ印刷スルノ繁ヲ避ケンガ爲メ一時假
證ヲ交付スルヲ常トス此制度ハ印刷ニ付スベキ額面金額ヲ申込ニ依テ始メ

テ決定スル場合ニ在テハ殊ニ便利ナルベシ
債券假證左ノ如シ

債券假證

番 號

千九百十七年發行四步利附中央債券

此證引換ニ債券及利札ヲ交付ス

伯林 千九百十七年 月 日

取締役

印 章

第五節 讓 渡

債券モ一種ノ有價證券ナルヲ以テ一般ノ規定ニ據リ記名無記名及指圖式ヲ
以テ發行スルコトヲ得ベク(實際ニ於テハ前二者ニ留マル)又商法八百六條ノ

規定ニ從ヒ無記名ヲ記名ニ記名ヲ無記名若クハ指圖式ニ變更スルコトヲ得
ベシ

債券ノ讓渡ハ以上ノ形式ノ異ナルニ從ヒ其手續ヲ異ニス即チ無記名式ノ場
合ニ在テハ債券引渡ニ據リ指圖文句ナキ記名債券ニ在テハ讓渡契約ニ依リ
指圖文句アル記名債券ニ在テハ裏書ニ依リ讓渡スベキモノトス

第六節 消滅

第一 利子支拂

銀行債券ヲシテ需要多カラシメントセバ種々ナル條件ノ外利子支拂ノ正確
便利ヲ保證セザルベカラズ「ジュマ」氏曰ク債券ノ信用ヲ高メ其取引ヲ圓滑ニ
セント欲セバ獨リ抵當權ノ安固ヲ要スルノミナラズ又利子支拂ノ正確ヲ期
セザルベカラズト土地抵當銀行ガ發行セル債券ノ愛好需要セラル、ト否ト
ハ利子支拂ノ確否及支拂方法ノ便否ニ關スルコト大ナリ

普魯西中央土地抵當銀行ノ利子支拂ハ債券ニ毎半年ニ支拂ハルベキ十年分
ノ利札及利札引換證ヲ附加シ之ト引換ニ毎年二回(其滿期日ノ前月ノ十五日
ヨリ一定ノ場所ニ於テ之ガ持參人ニ支拂フ仕組ナリ而シテ利札支拂場所ハ
募集ノ時ノ申込所ト同様ナリ

支拂濟利札ハ取扱店ニ於テ其中央ニ穴ヲ穿チ之ヲ銀行ニ送致シ銀行ハ之ヲ
交互計算勘定中送附銀行ノ資産ニ記入ス但其計算日ハ十日以上ニ遡ラザル
モノトス又銀行ハ取扱店ニ對シ利札支拂手數料一厘二毛五並ニ郵稅ヲ負擔
シ各期ノ終ニ於テ交互計算勘定中ニ記入ス

債券發行ニ當リ利子ヲ如何ニ決定スベキヤハ銀行ニ取り實際上重要ナル問
題ナリトス一般ニイフトキハ債券利子ハ第一級放資證券ノ一般利率ニ從ヒ
決定セラル但各個ノ場合ニ於テハ及其他ノ事由モ標準トナルコトアルハ勿
論トス而シテ第一級放資證券トハ帝國々債内國々債及市町債ノ如キモノニ
シテ繼續的ノ放資ヲ主眼トシ放資ニ投機的ノ觀念ヲ有セザルモノトス從テ

是等證券ニ在テハ發行者ガ支拂不能トナル場合少ク利子ハ危險ニ對スル保險料ヲ含マズ其他ノ證券ニ比シ利率低廉ナル證券ナリトス抵當銀行ノ發行スル債券ノ如キモ亦帝國銀行ニ於ケル第一級貸付資格ヲ有スルモノニ在テハ第一級放資證券中ニ算入セラルベキモノトス

債券ガ「バア」ノ相場ニ在ル一般放資證券利率ト同率ヲ以テ發行セラル、トキハ多少ノ差コソアレ其相場ハ大體ニ於テ同様ニシテ又「バア」ノ相場ニアルベシ債券ヲ發行スルニ何故ニ一般ノ放資利率ニ據ルヲ常トスルヤノ理由亦此一致ヲ來ス點アルニ外ナラズ公衆ハ一般利率ヨリ低廉ナル利率ヲ以テ發行セラル、證券ヲ購買スルヲ欲セザルモノニシテ其相場ノ低廉ナルニ拘ハラズカクノ如キ債券ノ賣却ノ困難ナルハ屢々吾人ノ目撃スル所ナリ其原因ハ多數購求者ハ資金ヲ一般利率四歩ニ放資セント欲スル場合ニ三五厘ノ債券ヲ購入セザルベカラズトセバ幾分不利ニ感ズルト又低利債券ノ多額ニ發行セラル、場合ニ在テハ其相場ハ一般利率ノ場合ニ於ケル相場ノ關係ニ比

シ低廉ナラザルヲ常トスレバナリ何トナレバ債券ハ相場價格ニヨラズ額面ヲ以テ償還セラル、ヲ以テ低廉ナル利率ノ關係上一度低落セル相場モヤガテ恢復スルニ至ルベキヲ以テナリ

然ラバ一般利率ヨリ高キ利率ヲ有スル債券ノ發行ハ如何銀行ハ其債務者ニ對スル貸付利率ヲ自由ニ變更スルコト能ハズ從テ債券利率ノ騰貴ハ貸付利率ト債券利率トノ差ヲ尠ナカラシメ繼續的收入ノ減少ヲ來サシムベク高率ナルガ爲メ生ズル額面以上ノ額ノ如キハ額面テ以テスル償還ハ十年後ニアラザレバ實行スルコト能ハザルニ鑑ミルトキハ重要ナル補償トナラザルベキヲ以テ高利債券ノ發行ハ銀行ノ能ク堪ユベキ所ニアラズ又一時アル營業年度ノ利益ヲ増加セシムル目的ヲ以テ高利債券ノ發行ヲ敢行スルガ如キモ想像セラレザルニアラズト雖モ帝國土地抵當銀行法第二十六條ハ「パーセント」ヲ超過スル利益ハ貸借對照表上準備金ト爲サルベカラザルヲ以テ能ク其目的ヲ達スルコト能ハザレバ事實實行セラルベキモノニアラザルベシ

過渡時代ニ在テハ多數ノ利率ガ一般利率ト認メラル、コトアリ例ヘバ四歩利債券ハ相場百〇二、〇〇三步四分ノ三債券ハ九八、〇〇ナル場合アルベシ此場合ニ於テ銀行ハ兩者ノ一ヲ撰擇スルコトヲ得ベシ然ドモカ、ル場合ニ於テモ慎重ニシテ經濟上ノ狀況及自己ノ責任ヲ知ル銀行ハ容易ニ債券利率ノ引上ノ始ヲ爲スガ如キ輕舉ヲ爲サルベシ若シカ、ル行爲ニ出ヅルトキハ忽チ他銀行ヲシテ之ニ倣ハシムルニ至リ貸付利率貸貸料ノ騰貴從テ恐ラク一般金融ノ騰貴ヲ惹起スルコトアレバナリ

如上ノ關係ハ貸付金ヲ支拂フニ債券ヲ以テスル銀行ニ在テモ考慮セラルベキ所ナリトスト雖モ其關係ヤ前者ニ於ケルガ如ク切ナルモノニアラズ何トナレバ債券ハ額面ヲ以テ計算セラレ其結果相場ノ如何ハ銀行ニ取リテハ間接ニシテ較差額ハ其利益ニ何等ノ影響ヲ及サルヲ以テナリ又貸付利率ヲ定ムルニ支拂ニ使用シタル債券利率以上一定率ヲ支拂フベキコトヲ以テスル場合ニ在テモ亦債券利率ニヨリ何等ノ影響ヲ有セザルナリ然ドモ是等ノ

場合ニ於テハ債務者ハ自己ノ計算ヲ以テ債券ヲ賣却スルモノニシテ債務者ハ其然ラザル場合ニ於テハ銀行ガ感ズベキガ如キ利害ノ關係ヲ有スルモノニシテ賣却ニ就キ銀行ハ猶間接ニ利害ヲ有スベキナリ

要スルニ新シク發行セラルベキ債券ノ利率ハ特殊ナル事情ナキニ於テハ流通ニアル放資證券ノ一般利率ニヨリ決定セラルベキモノナリ

債券ノ利率決定ノ基礎タルベキ放資證券ノ利率ハ各種ノ事情ニヨリ影響ヲ受ケ變動ス從テ債券利率モ常ニ變動シ一定セズト雖モ現今ニ於ケル利率ハ三步五厘、三步四分、三四歩、四歩五厘及五歩ナリトス普魯西中央土地抵當銀行ガ從來發行セル抵當債券及公共團體債券ノ利率及總土地抵當銀行債券利率左ノ如シ

月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
五	三	四	一	一	二	一	五	十	五	七	七	十	十	七	十	七	十	一	六	一
一、九〇六	一、九〇六	一、九〇四	一、九〇三	一、九〇二	一、九〇一	一、八九九	一、八九七	一、八九六	一、八九六	一、八九四	一、八九三	一、八九二	一、八九一	一、八九一	一、八九〇	一、八九〇	一、八九〇	一、八九〇	一、八九〇	一、八九〇
二〇,〇〇〇,〇〇〇	二二,五〇〇,〇〇〇	一八,〇〇〇,〇〇〇	一六,〇〇〇,〇〇〇	一六,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	七,五〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇
四・〇	三・五	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	三・五	三・五	三・五	三・五	三・五	三・五	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	四・〇	三・五	三・五
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一〇二・七〇	九六・二〇	一一〇・七〇	一〇〇・〇〇	九八・八〇	一〇一・五〇	一〇〇・五〇	一〇一・五〇	一〇一・五〇	九六・五〇	一〇二・五〇	一〇二・〇〇	一〇二・〇〇	一〇一・〇〇	一〇一・八〇	一〇〇・二〇	一〇〇・二〇	一〇〇・二〇	一〇〇・二〇	九六・〇〇	九六・〇〇

普魯西中央土地抵當銀行發行債券利率表

月	年	總額	債券利率	償還額	相場
十二月	一、八八五	一五,〇〇〇,〇〇〇	三・五	一〇〇	九九・〇〇
一月	一、八八五	二二,〇〇〇,〇〇〇	四・〇	一〇〇	一〇〇・二〇
二月	一、八八三	二二,〇〇〇,〇〇〇	四・〇	一〇〇	九八・四〇
三月	一、八八二	二二,〇〇〇,〇〇〇	四・〇	一〇〇	九八・〇〇
四月	一、八八〇	七,五〇〇,〇〇〇	四・〇	一〇〇	九八・二五
五月	一、八八〇	七,五〇〇,〇〇〇	四・〇	一〇〇	九七・五〇
六月	一、八七九	七,五〇〇,〇〇〇	四・五	一〇〇	九九・〇〇
七月	一、八七五	二二,〇〇〇,〇〇〇	四・五	一〇〇	九九・五〇
八月	一、八七四	一八,〇〇〇,〇〇〇	五・〇	一〇〇	九八・五〇
九月	一、八七三	一八,〇〇〇,〇〇〇	五・〇	一〇〇	一〇〇・〇〇
十月	一、八七二	一五,〇〇〇,〇〇〇	四・五	一〇〇	一〇〇・〇〇
十一月	一、八七二	一五,〇〇〇,〇〇〇	四・五	一〇〇	九八・五〇
十二月	一、八七一	九,〇〇〇,〇〇〇	五・〇	一〇〇	九八・二五

月	年	總額	債券利率	償還額	相場
一月	一九〇七	二〇〇〇,〇〇〇	四〇分	一〇〇	一〇一〇〇
五月	一九〇七	一〇〇〇,〇〇〇	四〇分	一〇〇	九九三〇
一月	一九〇八	二,〇〇〇,〇〇〇	四〇分	一〇〇	九四八〇

八八〇

土地金融組織發行債券平均利率表

月	年	相互組織		土地抵當株式銀行		合計
		相互組織	公共團體債券	相互組織	公共團體債券	
一月	一九〇〇	三,四二二八	三,五三二二	三,六九一九	三,五二七五	三,六〇五五
一月	一九〇一	三,四四八一	三,五五八三	三,七一〇八	三,六〇八〇	三,六二七一
一月	一九〇二	三,四四九七	三,五五一八	三,七二一七	三,六二一六	三,六三四四
一月	一九〇三	三,四四八七	三,五四四五	三,七二五六	三,五六七六	三,六三六五
一月	一九〇四	三,四四八一	三,五三一四	三,七三四三	三,五五七八	三,六四六〇
一月	一九〇五	三,四三三一	三,五三二一	三,七四一八	三,五五一五	三,六四五四
一月	一九〇六	三,四四六四	三,五三〇六	三,七四九一	三,五四四九	三,六五〇九
一月	一九〇七	三,四五八九	三,五六七八	三,七六二八	三,五九九三	三,六六九三

土地金融組織發行債券利率別割合表

一九〇八	三,四七四三	三,六三六〇	三,六四一七	三,七八二三	三,六八四〇	三,六九五七
一九〇九	三,四九一三	三,六五五九	三,六六二八	三,七九九九	三,七三三一	三,七一二五

月	年	相互組織		土地抵當銀行		相互組織		土地抵當銀行	
		相互組織	公共團體債券	相互組織	公共團體債券	相互組織	公共團體債券	相互組織	公共團體債券
一月	一九〇〇	六・一一	一五・〇九	七〇・四九	六五・七七	二二・七六	二二・七六	六・一四	一五・〇九
一月	一九〇一	九・八八	二四・一八	六八・一六	五五・七九	二一・三七	二一・三七	五・五二	一五・〇九
一月	一九〇二	九・四五	二二・六六	六九・四七	五八・一七	二〇・六〇	二〇・六〇	五・〇八	一五・〇九
一月	一九〇三	八・四八	二〇・七六	七一・三七	六一・九九	一九・六六	一九・六六	四・六〇	一五・〇九
一月	一九〇四	七・五六	一九・〇五	七三・二一	六五・四〇	一八・七八	一八・七八	四・一九	一五・〇九
一月	一九〇五	五・八三	一六・六八	七五・七七	六九・四四	一七・九九	一七・九九	三・七四	一五・〇九
一月	一九〇六	五・六七	一四・七八	七六・七三	七一・八六	一七・一一	一七・一一	三・四五	一五・〇九
一月	一九〇七	七・四五	二一・八二	七五・八二	五九・三三	一六・三一	一六・三一	三・〇八	一五・〇九
一月	一九〇八	九・八五	二八・六三	七四・三五	五三・九六	一五・四五	一五・四五	二・八〇	一五・〇九
一月	一九〇九	一一・六〇	三二・四六	七二・二九	四〇・三六	一四・八〇	一四・八〇	二・五九	一五・〇九

利札及利札引換ノ様式左ノ如シ

利札引換證

千九百八年發行普魯西中央債券第七組丙
號二六一六番

金千馬克 年四步利附

引換證

千九百九年
第七組 二六一六番
丙號

銀行ハ利札引換證所持人ニ對シ此證引換ニ十年ノ經過後豫メ公告ヲ爲シタル後利札面ニ記載セル支拂場所ニ於テ無償ニテ更ニ十年間ノ利札及利札引換證ヲ交付ス但定款第八十二條及八十四條ニ從ヒ斟酌スベキ異議アル場合若クハ債券所持人ニ例外トシテ利札ヲ交付スベキ場合ハ此限ニ在ラズ

伯林 千九百八年四月一日

登記濟	調查員	取締役	印章
利札 20 千九百八年第七組 丙號 二六一六番 金貳拾馬克 千九百十八年一月二日	利札 千九百八年發行普魯西中央債券第七組丙號二六一六番 金千馬克 年四步利附	20 金貳拾馬克 20 半箇年分利子ヲ千九百十八年一月二日裏面記載場所ニテ支拂フ 伯林千九百八年四月一日 取締役	利札 千九百八年發行普魯西中央債券第七組丙號二六一六番 金千馬克 年四步利附
利札 19 千九百八年第七組 丙號 二六一六番 金貳拾馬克 千九百十八年七月一日	利札 千九百八年發行普魯西中央債券第七組丙號二六一六番 金千馬克 年四步利附	19 金貳拾馬克 19 半箇年分利子ヲ千九百十七年七月一日裏面記載場所ニテ支拂フ 伯林千九百八年四月一日 取締役	利札 千九百八年發行普魯西中央債券第七組丙號 二六一六番 金貳拾馬克 千九百十八年七月一日

登記濟調查員 (印章)
此利札ハ千九百二十一年十二月三十一日以後無効トス

登記濟調查員 (印章)
此利札ハ千九百二十一年十二月三十一日以後無効トス

各利札裏面

利札ハ滿期日以後下記ノ場所ニ於テ支拂ハルベシ
 伯 林 普魯西中央土地抵當株式銀行
「ブライヒレデー」
「ケルン」 割引銀行理事局
「オッペンハイム」 父子商會
「フランクフルト、アムマイン」 割引銀行理事局
 其他公告シタル場所

註一 利札ニハ引換證及年二回十年間ノ利札ノ添付アリ此利札支拂濟ニ至リタルトキハ引換證ニ依リ其後十年間ノ利札及引換證ヲ交付スルモノトス

第二 償 還

帝國土地抵當銀行法ハ債券償還据置期間ヲ十年以下ニ制限セルヲ以テ土地抵當銀行ハ十年以上ニ据置期間ヲ定ムルコトヲ得ズト雖モ此以内ニ於テハ各土地抵當銀行ノ自由ナリトス元來此据置期間ハ貸付金据置期間ト相俟ツベキモノナルコトハ土地抵當銀行ハ資本家ト需要者ノ間ニ介在スル媒介者タル本質ヨリ然ルノミナラズ若シ貸付金据置期間以上ニ亘リテ之ヲ設ケタ

ルトキニ在テハ土地抵當銀行ハ之ニ依リ多大ノ犠牲ヲ供シテ市場ニ於テ債券ヲ購入スルノ危險ニ遭遇スルコトアルベキヲ以テナリ普魯西土地抵當銀行法ハ明ニ此關係ヲ規定シテ債券据置期間ハ之ガ引當タル抵當權ノ据置期間ト相伴フベシトナシ從テ此期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ザルコト、セリ一定ノ年限償還ヲ爲スコトヲ得ザル規定ハ債券所有者ニ一定ノ年限間利息收入ヲ確保シ且抽籤表ニ注意スル煩勞ヲ避クルコトヲ得セシムルモノニシテ全ク短キ据置期間ハ債券所有者ノ喜バザル處ナルガ如シ普魯西中央土地抵當銀行ガ千九百年前後ニ於テ三五年ノ据置期間(註)ヲ規定シタルニ反シ其以後ハ十年ノ据置期間ヲ設クルノ方法ヲ採ルニ至リタルハ此趨勢ニ伴フタルモノナリト云フ

註 千八百八十六年發行債券ハ千八百八十九年償還ヲ始ムルヲ以テ三年千八百八十九年發行債券ハ千八百九十三年ヨリ償還ヲ開始スルヲ以テ四年千八百九十四年發行債券ハ千九百年償還ヲ始ムルヲ以テ五年千八百九十六年ノ債券ハ千九百零六年償還ヲ始ムルヲ

償還ノ方法ニ就テハ法律ハ何等規定スル所ナク各土地抵當銀行ノ自由ニ一任セリ而シテ土地抵當銀行定款ニヨルトキハ償還ノ方法ハ債券ノ全部又ハ其一部ヲ催告スルカ債券ヲ個々ニ抽籤スルカ又ハ自由買入ニ據ルカニアリ普魯西中央土地抵當銀行償還ノ方法ハ前後其條件ヲ異ニシ初期ニ在テハ償還期限ヲ定メ償還ニ抽籤ヲ以テシタルモ(註一)近時ニ於テハ此抽籤ノ方法ヲ全廢シ總債券ヲ全部償還スルカ或ハ各一組ヲ償還スル方法(註二)ヲ採ルノミナラズ千九百七年ニ於テハ償還期ヲモ全廢シタリ(何レノ場合ニ於テモ買入償還ヲ爲シ得ルハ勿論トス)(註三註四)當銀行ガ抽籤ヲ以テ債券ヲ償還スル方法ヲ廢シタルハ主トシテ事務取扱ノ便及債券所有者ヨリノ希望ニ因ルモノナリ銀行ヨリイヘバ毎年一定ノ金額ヲ定メ抽籤ヲ以テ償還セザルベカラザルハ大負擔ナリト稱スベカラザルモノノ負擔タルニ相違ナク又抽籤ニ據リ諸種ノ事務及費用ヲ要シ是等ハ率テ貸付ヲ受クルモノ、擔トナルベク又

債券所有者ノ側ヨリイフモ常ニ抽籤番號ニ注意セザルベカラザルハ決シテ容易ノ業ニアラズ殊ニ獨逸ニ於ケルガ如キ發行債券ノ多額ナル場合ニハ困難ヲ感ズルコト一層甚ダシキノミナラズ偶々之ヲ見落セシガ爲メ遂ニ償還金ノ請求權ヲ喪失シ意外ノ損失ヲ蒙ル虞ナシトセズ

註一 千八百九十年四歩利附抵當債券發行條件左ノ如シ

此債券ハ發行總額千五百萬馬克ニシテ千八百九十九年末迄ニ締結シタル貸付金ノ引當アリ

債券ハ無記名トシ五千馬克三千馬克千馬克五百馬克三百馬克百馬克ノ六種ニシテ債券所有者ニ返濟請求權ナク償還ノ日迄附利ス

債券償還ハ額面ヲ以テ抽籤ノ方法ニ因ル而シテ銀行ハ少クモ償還ニ依リ節約セラレタル利子ト共ニ債券額面ノ三分ノ一「パーセント」ヲ毎年償還シ千九百年一月一日ヨリ起算シテ六十六年以内ニ償還ヲ了スベシ抽籤ハ千九百年三月ヲ第一回トシ毎年三月ニ之行ヒ之ヲ公告シタル後次ノ十月一日ニ償還ス但銀行ハ千九百年三月一日ヨリコレ以上ノ抽籤ヲ爲シ又六箇月ノ催告期間ヲ以テ全債券ヲ一時ニ償還スル權利ヲ有ス

利札ハ毎年四月一日及十月一日取締役ノ公告セル場所ニ於テ支拂フ

註二 千八百九十九年四歩利附抵當債券發行條件左ノ如シ

此債券ニハ千九百八年末迄ニ締結シタル貸付金ノ引當アリ

發行總額ハ五千萬馬克以下ニシテ之ヲ百萬馬克ヅ、五十組ニ分チ額面ニ從ヒ號ヲ區別
ス即チ甲號一番ヨリ四千番額面千圓乙號一番ヨリ千番三千馬克丙號一番ヨリ二萬番千
馬克丁號一番ヨリ九千五百番五百馬克戊號一番ヨリ五千番三百馬克己號一番ヨリ七千
五百番百馬克ナリ番號ハ各組ヲ通ジ之ヲ替ヘズ各號番數ハ五十組ニ終ル如クス利率四
歩ニシテ毎年一月二日及七月一日ニ支拂フ各組ハ羅馬數字ヲ以テ番號ヲ附ス

償還ノ方法ハ抽籤ニ據ラズ銀行ヨリ催告後六箇月ノ後ニ於テ償還ス償還ヲ爲スニ當テ
ハ全債券ヲ一時ニ償還スルカ又ハ各組ヲ償還スル方法ニ據ル而シテ各組ヲ償還スルニ
ハ第一組ヨリ初メ第五十組ニ終ルモノトス千九百五十九年七月一日迄催告ヲ爲サハ
トキハ銀行ハ千九百六十年一月二日ニ於テ全部償還スル義務ヲ負フ千九百九年一月二
日前ニ在テハ銀行ハ催告スルコトヲ得ズ債券所有者ハ催告權ヲ有セズ

註三 千九百七年四歩利附債券發行條件ハ前記募集公告ニ詳ナリ

註四 抽籤ハ取締役監理官及公證人若クハ裁判官立會ノ上ニテ之ヲ爲シ當籤番號償還ノ

場所及時期ハ償還六箇月前公告スルモノトス抽籤方法ハ各回ニ募集セル債券ヲ區別シ
テ各類トナシ同類別ニ屬スル諸債券ヲ同一籤輪中ニ投入シ償還ニ供セラレタル金額ニ
相當スル迄當リ籤トス

又抽籤廢止ト同時ニ償還期ヲモ全廢シタルハ本邦ニ於テ償還期ノ如何ニ因
リ相場及賣行ニ大影響ヲ有スル實況ニ照ス時ハ寧ロ奇ナル觀ナキ能ハザル
所ナリ償還期ノ定メアル場合ニ於テモ六十年或ハ七十年ノ長期ヲ以テスル
ガ如キハ我國ニ於テハ目下ノ狀態ニ於テ到底實行シ難キ所ナルベシ獨逸國
ノ狀況上述ノ如クナルニ至リタルハ經濟事情ヲ異ニスルヨリ生ズル結果ナ
ルハ言ヲ俟タザルベシト雖モ一ハ土地抵當銀行ガ確實ニシテ從テ之ニ依テ
發行セラル、債券ハ確實ナルモノトシテ好箇ノ放資目的ト看做サル、ニ歸
因スルノミナラズ其利率ノ比較的高額ニシテ且容易ニ現金ニ換ヘ得ルノ事
實ハ償還ヲ以テ債券取得ノ大要件トナサハルニ至リシモノナリ當銀行ガ千
九百七年ノ甚シキ不景氣ニ際シ償還期ヲ全廢シテ猶好結果ヲ以テ其發行ヲ

完了シ得タルハ此間ノ消息ニ知ルニ充分ナルベシ
 催告ノ方法ニヨル償還ハ金利低落シ其結果收入ノ減少若クハ延滞金ノ増加
 スル場合等ニハ高利附債券ヲ即時ニ返還スルコトノ自由ヲ得ルモノナレバ
 多數ノ土地抵當銀行ニヨリ抽籤方法ト相並デ採用セラル、モノナリ然ドモ
 此方法ハ借換ヲ爲サル、ノ虞アルヲ以テ幾分債券ノ相場ヲ低廉ナラシムル
 ノ不利益アリ但此不利益ハ据置期間ノ伸縮ニ依リ之ヲ輕減セシメ得ベキモ
 ノトス

債券ハ債券所有者ヨリ償還ヲ請求スルコトヲ得ザルモノトス(註二)獨逸國ニ
 在テハ嘗テ債券所持人ニ對シテ全ク區別ナク何時ニテモ其償還ヲ請求スル
 コトノ自由ヲ與ヘタルコトアリ當時銀行ノ業務ニ當ルモノハ思ヘラク相當
 ノ利子ヲ付シタル債券ノ額面ガ價格以上ニ取引セラル、ハ理ノ當ニ然ルベ
 キ所ナルヲ以テ所持人ハ容易ニ銀行ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトナカル
 ベク從テ銀行ノ信用ヲ害スルガ如キ事實ヲ生ゼザルベシト然ドモ十九世紀

ノ初期ニ於ケル政治上ノ事變ハ其影響ヲ經濟上ニ及ボシ普魯西全土ヲ通ジ
 テ恐慌ニ遭遇セシ時ニ當リテ債券ノ償還ヲ請求スルモノ陸續トシテ踵ヲ接
 スルニ至リタリ茲ニ於テカ政府ハ銀行ヲ救済センガ爲メ千八百七年ノ勅令
 ヲ以テ一時償還ノ停止ヲ布告シ更ニ千八百三十二年ニ及ビ債券強制償還ハ
 全然之ヲ廢止シ以テ今日ニ及ベリ(註二)

註一 帝國土地抵當銀行法第八條第二項末文 銀行ハ債權所有者ニ償還請求權ヲ附與ス
 ルコトヲ得ズ

註二 強制償還ノ方法ニ次デ起リシモノハ即チ抽籤償還ノ方法ナリトス

債券ノ償還ニ富籤類似ノ方法ヲ採リタルコトハ會テ行ハレタル方法ナリシ
 ト雖モ政府ハ其弊ノ甚シキヲ認メ千八百七十一年六月一般ニ私設會社ニ對
 シ富籤類似ノ方法ヲ使用スルコトヲ禁止シタルヲ以テ土地抵當銀行モ償還
 ニ此方法ヲ採用スルコト能ハザルニ至レリ

帝國土地抵當銀行法ハ第九條ニ於テ額面以上ノ償還ヲ爲ス債券ノ發行ヲ禁

止シタルヲ以テ步増金付(富籤ニ非ズ券面以上ヲ以テ償還スル債券ナリ)債券
モ今日ニ於テハ發行ヲ爲スコト能ハザルニ至レリ而シテ其禁止ノ理由ハ斯
ノ如キ債券ノ發行ハ出來得ル丈償還ヲ延期シ期限前ノ償還ヲ爲スコトヲ欲
セズ從テ計畫的償還ノ外ニ繼續的催告停止ヲナスト同様ノ結果ニ陥ルベケ
レバナリ

償還濟債券ハ頭取若クハ取締役監理官監査役及検査役ノ面前ニテ無効ナル
印章ヲ施シ記録ヲ作成シテ流通ヨリ除去スルモノトス

第十章 普魯西中央土地抵當株式銀行

定款

第一章 總則

第一條 銀行ハ現行定款ニヨリ普魯西中央土地抵當株式銀行ノ商號ヲ以テ
伯林ニ於テ設立シ内外ノ各地ニ支店及代理店ヲ設置スルコトヲ得

第二條 銀行ハ土地及公共團體ニ資本ヲ供給スルヲ以テ目的トシ此目的ヲ
達センガ爲メ次ノ營業ヲナス

一 土地及建物ノ所有者ニ之ヲ擔保トナシテ貸付ヲナシ且抵當付債權ヲ取
得ス

二 普魯州郡市土地改良組合及其他公法上ノ普魯西國公共團體ニ對シ若ク
ハ斯ル公共團體ノ保證ノ引受ニ對シ貸付ヲナス

三 獨逸輕便鐵道會社ニ對シ軌道ヲ擔保トシテ貸付ヲナス
四 第一號乃至第三號記載ノ業務ニ基キ且此業務ニヨリ請求シ得ベキ權利

ノ總額ニ至ルマデ抵當債券中央債券ト名ク公共團體債券及輕便鐵道債券ヲ發行ス銀行ハ此等債券ニ抽籤償還若クハ無抽籤償還ノ條件ヲ付ス銀行ノ資本金ハ主トシテ上記業務ノ爲メニ使用スルモノトス

銀行ハ其他次ノ業務ヲ爲ス

五 抵當付債權ノ貸付ヲ爲シ之ヲ讓渡シ又ハ土地所有者ノ計算ヲ以テ擔保ヲ徵シテ之ガ支拂ヲナス

六 手数料ヲ取得スル目的ヲ以テ有價證券ヲ賣買ス但定期取引ヲ爲サズ

七 抵當權ノ取得ヲ媒介シ或ハ抵當債券公共團體債券若クハ輕便鐵道債券ノ發行ヲ容易ニセンガ爲メニ現金若クハ其他ノ物件ヲ寄託ノ目的ヲ以テ收受ス以上ノ寄託金ハ其總額拂込資本金ノ半額ヲ超ユルコトヲ得ザルモノトス

八 手形指圖證券及之ニ類似スル證券ノ取立ヲ周旋ス

九 餘遊金ヲ以テ適當ナル銀行ニ寄託シ自己發行ノ中央債券公共團體債券

及銀行法ノ規定ニ從ヒ帝國銀行ノ購入シ得ベキ手形有價證券ヲ買入レ並ニ監査役ノ設ケタル貸付規則ニヨリ有價證券ニ貸付ヲナス監査役ハ又貸付ノ目的タルベキ證券ノ種類及貸付額ヲ規定ス銀行ノ徵スベキ諸手数料額モ亦監査役之ヲ決定ス

第三條 銀行ハ債權ニ對スル損失ヲ防グニ必要ナル場合ノ外土地所有權ヲ取得スルコトヲ得ズ取得シタル土地ハ上記目的ヲ斟酌シ可成速ニ之ヲ賣却スベシ

第四條 第三條ノ規定ハ其取得ガ必要若クハ有利ナル場合ニアリテハ營業用地所ノ取得ニ適用セズ

第五條 銀行ハ次ノ權利ヲ有ス
以上ノ取得ハ豫メ監査役會ノ承諾ヲ得ルニ非レバ之ヲ爲スコトナシ

一 從來ノ資本金三千六百萬馬克ニ基キ

甲 拂込資本金ノ二十倍マデ中央債券及輕便鐵道債券ヲ發行ス

乙 中央債券及輕便鐵道債券ヲ加算シテ拂込資本金ノ二十四倍マデ公共團體債券ヲ發行ス

二 增加資本金ニ基キ

甲 資本金増加ノ結果拂込マレタル額及損失ノ引當若クハ專ラ債券所有者ノ爲メニスル準備金ノ十五倍マデ中央債券及輕便鐵道債券ヲ發行ス

乙 甲記載中央債券及輕便鐵道債券ヲ加算シテ上記準備金ノ十八倍マデ

公共團體債券ヲ發行ス

第二號計算ニ當テハ第一號ノ最高額ニ達シタル際ニ存在シタル準備金ヲ算入セザルモノトス

第六條 銀行ハ抵當權業務並ニ輕便鐵道貸付業務ヲ(第二條第三號)獨逸帝國内ニ於テ公共團體ニ對スル貸付業務ヲ(第二條第二號)普魯西國內ニ於テ行フ

此規定ハ銀行ガ不良債權ノ引當トシテ外國ニ於テ抵當權ヲ設定セシメタ

ル場合ニ適用セズ

第七條 銀行ハ次ノ機關ヲ置ク

取締役

監査役

總會

第八條 銀行ガ公告ヲナストキハ獨逸帝國官報ニ其事項ヲ公告ス公告ハ定款若クハ法律ガ當該事件ニツキ數回之ヲナスベキコトヲ命ゼザル場合ニ於テハ一回ヲ以テ足ル公告ハ命令ヲ以テ明示的ニ頭取若クハ監査役ニ委任セラレザル場合ニアリテハ取締役之ヲナス但普魯西中央土地抵當株式銀行ノ名ヲ以テ公告者ノ異ナルニ從ヒ或ハ頭取或ハ取締役或ハ監査役之ニ署名ス

第二章 資本金

第九條 銀行資本金ハ目下四千四百四十萬馬克五千五百五十萬佛トス

從來資本金三千六百萬馬克ニ對スル出資者ハ額面ノ四十パーセントヲ拂
込タルトキハ夫レ以上ノ拂込ヲナス義務ナク且無記名假株券ノ交付ヲ受
ク

第十條 銀行ノ株式ハ無記名トシ六萬株即チ第一號ヨリ六萬號マデ額面六
百馬克七百五十佛三千株即チ六萬一號ヨリ六萬三千號マデ額面千二百馬
克(千五百佛)トス株式ハ監査役ノ定メタル雛形ニヨリ作成ス

第十一條 銀行ハ資本金ヲ總會ノ決議ヲ經主務大臣ノ認可ヲ得テ六千萬馬
克(七千五百萬佛)マデ増加スルコトヲ得夫レ以上ノ増加ハ總會ノ決議ヲ經
テ國王陛下ノ認可ヲ要ス

第十二條 資本増加ノ場合ニ於テ第一回株主ハ猶株主タル資格ヲ有スル限
リ所有株ニ比例シテ三分ノ一其他ノ株主ハ所有株ニ比例シテ三分ノ二ノ
新株ヲ發行相場ヲ以テ引受クベキ權利ヲ有ス
前項ノ相場ハ額面以上タルコトヲ得

株式ノ引受ニ關スル優先權者ハ監査役ガ少クトモ四週間以上ニテ帝國官
報ニ適當ニ公告シタル排除期間内ニ其權利ヲ實行スベシ然ラザレバ其權
利ヲ失フ部分權利者アル場合ニハ監査役其割當方法ヲ決定ス

第十三條 銀行ガ資本増加ノ際ニ發行スル株券ハ無記名トシ若シ假株券ヲ
發行スル場合ニハ記名トス假株券ハ千二百馬克ノ額面ヲ有シ監査役其雛
形ヲ決ス

第十四條 本定款ニ於ケル株券ニ關スル規定ハ株券發行アルマデ之ニ代ハ
ルベキ假株券ニ之ヲ適用ス

第十五條 假株券ニ對スル第二回以後ノ拂込ハ監査役ノ定メタル細則ニ從
ヒ漸次之ヲ拂込ムモノトス一回ノ拂込額ハ額面ノ二十パーセントヲ最高
限トス各拂込金ノ支拂ノ請求ハ拂込期日ヨリ四週間前帝國官報ニ公告ス
ベシ

第十六條 銀行ハ全部拂込アリタルトキニ株券ヲ交付スベシ

第十七條 銀行ハ假株券並ニ株券ニ監査役ノ定メタル雛形ニ從ヒ十年間ノ配當證及其引換券ヲ添付ス十年間ノ經過後ニ於テハ銀行ハ配當證引換券ノ交付ニ對シ更ニ十年間ノ配當證ヲ發行ス
株券ノ交付ニ際シテハ假株券配當證引換券ノ外當時猶滿期タラザル配當證ヲ銀行ニ返還セザル可カラズ
株券假株券配當證及配當證引換券ニハ保證アル外國語譯ヲ添附スルコトヲ得

第十八條 株式ニ對スル滿期拂込金ガ拂込マレザルトキハ取締役ハ支拂ヲ遲滯シタル假株券番號ヲ記載シ義務者ハ四週間ヲ下ラザル期間内ニ五分ノ利子ト共ニ上記金額ヲ拂込ムベキ旨ヲ公告スベシ
株主ガ前條ノ期日ニ拂込ヲナサル時ハ取締役ハ利子ノ外滿期額ノ十^二パーセントノ損害賠償ヲ課シ且上記金額及利子諸費用ノ支拂ヲ法律上ノ手續ニ從ヒ請求スルコトヲ得ベシ

銀行ハ又取締役ノ決議ニヨリ遲滯株主ニ對シ三回拂込ノ請求ヲナシタル後株券及拂込ノ失權ヲ宣言スルコトヲ得可シ

第十九條 株券假株券配當證若クハ配當證引換券ガ毀損汚染又ハ年ヲ經タルガ爲メ流通ニ堪エザルニ至リタルトキハ株主ハ其株券ガ主要ナル内容及證書ノ區別ノ標識ヲ存スル限リ其株券ヲ添テ銀行ニ差出シ新券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得諸費用ハ株主之ヲ負擔シ且前拂スベキモノトス其他ノ場合ニ於テ毀損喪失ノ結果新株券若クハ假株券ノ發行交付ノ請求アルモ裁判上無効判決アルニアラザレバ之ヲ交付セザルモノトス

第二十條 配當證ハ滿期トナレル年ノ十二月三十一日ヨリ起算シ四年内ニ提出スルニアラザレバ其効力ヲ失フ當該配當ハ銀行ニ歸屬ス
紛失若クハ滅失配當證ハ公示催告手續ニヨリ無効ヲ宣告スルコトヲ得ズ配當證ガ滅失シ所有者ガ四年ノ提出期間經過前其旨ヲ銀行ニ届出デタルトキハ其所有者ハ期間經過後銀行ヨリ支拂ヲ請求スルコトヲ得紛失配當

證ガ支拂ノ爲メ銀行ニ提出セラレ若クハ配當證支拂ノ要求ガ裁判上主張セラレタルトキハ以上ノ請求ヲナスコトヲ得ズ但提出又ハ裁判上ノ主張ガ期間經過後ナルトキハ此限ニアラズ以上ノ請求權ハ四年ヲ以テ消滅ス毀損又ハ紛失配當證引換券ハ公示催告手續ニヨリ其無効ヲ宣告スルコトヲ得ズ株券所有者ヨリ異議ノ申出アリタルトキニアリテハ銀行ハ株券ニ對スル配當證ヲ當該配當證ノ受領ヲ證スル引換券所有者ニ交付セザルコトヲ得此場合ニ於テハ銀行ハ株券ノ提出ニ對シ株券ノ所有者ニ之ヲ交付ス

第二十一條 株主又銀行間ノ爭議ハ一般法律ノ規定ニ從ヒ其管轄及手續ヲ決ス

第三章 銀行ノ指揮監督

甲 頭取及取締役

第二十二條 頭取ハ銀行事務ノ最高ノ指揮ヲナス頭取ノ外ニ二名若クハ夫

レ以上ノ取締役ヲ置キ任命ノ順ニ從ヒ頭取ノ不在病氣其他頭取缺員ノ場合ニ之ヲ代理セシム

監査役ハ取締役ノ外ニ又代理取締役ヲ任命スルコトヲ得但此者ニ對シテハ明ニ其規定アル場合ニ限り本定款取締役ニ關スル規定ヲ適用ス

第二十三條 頭取及取締役ハ普魯西國國民ニシテ監査役之ヲ選任シ國王陛下ノ勅許ヲ受クベキモノトス

前項ノ勅許ハ隨時之ヲ取消スコトヲ得

第二十四條 頭取ハ其上任命前定款上ノ職務實行ヲ擔保スル爲メ其所有ニ係ル六十株取締役ハ三十株ヲ銀行出納課ニ供託スベシ前記株券ハ其在職中及其退職後其免責ニ至ルマデ讓渡スルコトヲ得ズ

第二十五條 監査役ハ頭取取締役及代理取締役ノ報酬額ヲ決ス

第二十六條 頭取取締役及代理取締役ハ獨逸商法ノ規定ニ從ヒ銀行ヲ代表ス

頭取又ハ取締役ノ資格ヲ證明スルニ就テハ商法上規定セラレタル公告ニ
ヨル外猶其他ノ證明ヲ必要トスル場合ニアリテハ就任辭令書若クハ之ニ
基キ發行セラル、裁判上又ハ公證ノ證明書ニヨルモノトス
頭取ハ銀行事務ノ分配ヲナシ營業規定ニ基キ行員ニ對シ懲戒ヲ行フ(第三
十六條)

取締役ハ自己ノ認メタル(第三十五條參照)監査役ノ決議ヲ實行シ且之ニ必
要ナル命令ヲ發シ行員及銀行代理者ヲ任免ス其他取締役ノ能力相互ノ地
位事務ノ分配中央及地方事務等ニ關スル特殊規定ハ定款ニ規定ナキ限り
營業規則ニ從フ(第三十六條)

第二十七條 銀行商號ノ下ニ頭取及一名ノ取締役或ハ二名ノ取締役或ハ頭
取及一名ノ支配人或ハ一名ノ取締役一名ノ支配人ノ署名ヲ有スル總テノ
證書及文書ハ銀行ヲ拘束ス代理取締役モ亦取締役ト同一ノ權限ヲ有シ且
其行爲ノ有効ナル爲メニ他ノ取締役ノ事故アルコトヲ證明スルヲ要セズ

各業務ニ對スル全權ハ有効ニ之ヲ附與スルコトヲ得

第二十八條 監査役ハ隨時頭取及取締役ノ任命ヲ取消スコトヲ得但其決議
ハ全員ノ四分ノ三以上ノ多數決ニヨリ國王陛下ノ認可ヲ要ス

乙 監 査 役

第二十九條 監査役ハ株主總會ニテ選出セラレタル十八名ヲ以テ組織シ其
定員中十四名ハ内國人ニシテ且六名ハ伯林若クハ其近郊ニ住居セザルベ
カラザルモノトス

監査役ノ任期ハ上任後第四回營業年度貸借對照表ニ就キ決議スル總會ノ
終了ヲ以テ滿了ス營業年度ノ計算ニ當テハ選任シタル年度ヲ算入セザル
モノトス監査役ノ氏名ハ獨逸帝國官報ニ公告ス

第三十條 毎年通常總會ニ於テ可成一定ノ順序ニ依リ其三名若クハ第二十
九條ノ任期ヲ超エテ在任セザラシメンガ爲メ其他ノモノヲ解任ス解任ハ
在任年限ノ順序ニ據ル在任期等シキ場合ニハ自由ナル契約成立セザル限

リ抽籤ニ據ル

九〇六

第三十一條 監査役ハ再選スルコトヲ得但新規選出ノ方法ニ據ルモノトス
議長副議長及監査役ハ第三者若クハ官廳ニ對シ自己ノ資格ヲ證明スル場
合ニハ選舉ニ關スル議事録ニヨリ作成セラル、公正ノ證書ニヨルモノト
ス

第三十二條 監査役ハ銀行株券十五ヲ有シ且之ヲ銀行ニ供託スベシ供託株
ハ在職中讓渡スルコトヲ得ズ

第三十三條 監査役ハ必要ニ應ジ銀行住所地ニ集合ス
監査役ハ通常總會後毎年第一回會議ニ於テ監査役中ヨリ議長及副議長ヲ
互撰ス議長及副議長ハ伯林若クハ其近郊ニ住所ヲ有セザルベカラズ
議長及議長支障アル場合ニハ副議長ハ次ノ義務ヲ負フ
一 監査役會ヲ招集ス招集ノ通知ニハ議決スベキ事項ヲ記載シ且外國ニ居
住スル役員ニ鑑ミ適當ノ期間ヲ以テ通知ヲ發スベシ

二 監査役會及總會ニ於テ議事ヲ指揮ス

三 頭取取締役代理取締役ト職務上ノ契約ヲナス

四 頭取取締役代理取締役及其他職員ニ對シ監査役ヲ代表ス

議長ハ監査役六名以上ノ申請アリタルトキハ監査役會ヲ招集スル義務ア
ルモノトス

頭取及取締役ハ監査役會ノ議事ニ加ハルコトヲ得但議事ガ自己ニ關スル
場合ニハ此限ニアラズ

第三十四條 監査役會ハ議事録ヲ調製シ出席役員議決ノ目的及議決ヲ記録
ス

監査役會議長及出席役員ハ議事録ニ署名ス

第三十五條 監査役會ハ八名以上出席スルニアラザレバ議決ヲナスコトヲ
得ズ

議決ハ取締役ノ認可ヲ得ザレバ其効力ヲ發生セズ但監査役ガ臨時總會ヲ

招集シ頭取々締役ノ免職ヲ決議シ若クハ之ガ責任ヲ要求スル場合ハ此限ニアラズ

第三十六條 監査役ハ銀行一般ノ事件ニツキ決議ス但頭取若クハ取締役ノ獨裁ニヨル事件ニ就テハ此限ニアラズ

議決ハ監査役ノ單純ナル多數決ニヨル可否同數ナルトキハ議長ニヨリ抽カルベキ籤ヲ以テ決ス選舉ニ關シテハ第五十三條ニ規定シタル手續ニ據ル

本定款ニ規定セル諸權能ノ外下ノ事務ハ監査役ノ職務範圍ニ屬ス

甲 業務執行機關ヨリ總會ニ提出セラルベキ事項殊ニ貸借對照表ニ就キ豫メ商議シ且議決ス

乙 銀行ノ支店代理店ヲ設置ス

丙 貸付業務及中央債券公共團體債券若クハ輕便鐵道債券ノ發行並ニ作成ノ一般條件ヲ確定ス

丁 取締役ニ對スル官營細則支店代理店監督細則並ニ既存規則ノ必要ナル變更ヲ決定ス

戊 毎年頭取ヨリ提出スル報酬豫算及三年以上ニ亘ル任命契約ヲ承認ス
己 準備金ノ使途及金融ノ一般規定ニ就キ決議ス

庚 株式拂込ヲ決議ス

丙 號、己 號及庚 號ノ事項ハ出席監査役ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ多數決ヲ以テ決ス

第三十七條 當該會議缺席監査役ヲ顧慮シ監査役四名ヨリ會議延期ノ請求アリタルトキハ一回限リ十四日以内ノ延期ヲナスコトヲ得

第三十八條 監査役ハ一定ノ目的及一定ノ時期間一人又ハ數人ノ監査役ヲシテ自己權利ノ實行ニ當ラシムルコトヲ得

第三十九條 監査役ハ一定ノ報酬ヲ受ケズ只職務實行ニヨリ生ズル諸費用及ヒ其勤務ニ對シ手當ノ支給ヲ受ク手當額ハ總會之ヲ決定ス第五十五條

ニ從ヒ監査役ガ受クベキ利益配當ハ監査役ノ定メタル細則ニヨリテ分配ス

丙 檢 査 役

第四十條 株主總會ハ三年ノ任期ヲ以テ三人ノ檢査役ヲ選任ス檢査役ハ同時ニ監査役ヲ兼ヌルコトヲ得ズ毎年通常總會ニ於テ最長在任者ヲ免ズ但再選スルコトヲ妨グズ

第四十一條 檢査役ノ一人ガ死亡退職或ハ永ク職務ヲ執ルコト能ハザルトキハ他ノ檢査役ハ次ノ株主總會マデノ任期ヲ以テ補充檢査役ヲ任命ス此場合ニ在テハ株主總會ハ前任者ノ任期ヲ以テ確定選舉ヲナスベキモノトス

第四十一條 檢査役ハ自己ノ職務ニ對シ賠償ヲ得但其範圍ハ總會之ヲ決定ス

第四十三條 檢査役ハ監査役會ニ列シ發言權ヲ有ス檢査役ハ中央債券及其

他ノ債券ノ發行並ニ之ト密接ノ關係ヲ有スル定款ノ規定ノ遵守ヲ監督シ監査役ト共同シテ財産目錄決算書及貸借對照表ヲ審査シ且時々金庫ヲ檢査シ之ニ關スル報告ヲ株主總會ニ提出ス檢査役ハ上記任務ニ必要ナル限リ銀行帳簿計算書往復書類並ニ證書類ヲ檢閱スルコトヲ得監査役ハ又一致ノ決議ヲ以テ株主總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

丁 株 主 總 會

第四十四條 總會ハ株主全員ヲ代表シ其決議ハ全株主ヲ拘束ス全株主ハ總會ニ參列スルコトヲ得但總會ニ於テ決議權ヲ有スルモノハ總會五日前ニ於テ銀行帳簿ニ自己ノ姓名ヲ記入セシメ且株券所有ノ證據トシテ總會一日前自己所有株式ヲ銀行或ハ招集書ニ記載シ若クハ招集ニ關スル公告ニ示サレタル場所若クハ公證人ニ寄託スルモノニ限ル銀行ハ以上ヲ以テ自己票決權ヲ證明シタル株主ニ對シ其代表株及其歸屬票決權ノ數ヲ記載セル證票ヲ交付ス株券及議決權數ヲ記載セル全株主一

覽表ハ請求ニ基キ株主ニ交付シ且株主ノ一覽ノ爲メニ銀行内ニ之ヲ備置クモノトス

第四十五條 六百馬克以上ノ株券ヲ所有スルモノハ一票決權千二百馬克以上ノ株券ヲ有スルモノハ二票決權ヲ有ス

株主ハ自己及他人ノ代理人トシテ二百以上ノ票決權ヲ有スルコトヲ得ズ

第四十六條 未成年者妻商業會社及其他ノ會社及公共團體ハ株主ニアラザ

ル各自ノ法定代理人ヲ總會ニ列席セシムルコトヲ得其他ノ株主ハ票決權

アル株主ニアラザレバ代理人トナスコトヲ得ズ委任狀ハ審査ノ爲メ總會

開會八日前頭取ニ提出セザルベカラズ

第四十七條 總會ハ伯林市ニ開ク通常總會ハ通常毎年最初ノ五ヶ月内ニ開

ク臨時總會ノ招集ハ取締役監查役若クハ株主總會並ニ監理官之ヲ決ス

臨時總會ハ又全員一致ヲ以テ検査役ヨリ或ハ資本金ノ二十分ノ一以上ニ

當ル株主ヨリ總會ノ目的及招集ノ理由ヲ記載シタル署名アル書面ヲ以テ

請求アルトキハ之ヲ招集セザルベカラズ

第四十八條 取締役ハ總會ノ招集ヲ少クトモ開會二十一日前官報ニ公告ス

ベシ但法律若クハ定款ニ別段ノ規定アル場合ハ此限ニアラズ

第四十九條 議長ハ(第三十三條第三項第二號)議事日程ヲ定メ書記ヲ任命ス

議事ニツキ裁判上若クハ公正ノ議事録ヲ作成シ之ニ議決ノ方法決議ノ結

果及書記ノ報告ニ據リ代表株及票決權ノ數ヲ記載スルモノトス議事録ニ

ハ議長書記出席検査役及出席監查役署名ス

第五十條 通常總會ハ殊ニ貸借對照表損益計算書營業報告書並ニ監查役及

検査役ノ報告ヲ受領シ貸借對照表利益分配案並ニ取締役監查役ノ責任解

除ニ就キ議決ス

第五十一條 總會ハ監查役及検査役ヲ選舉シ且其賠償若クハ手當ノ額ヲ決

定ス總會ハ又頭取取締役監查役ノ銀行ニ對スル責任ノ主張及其手段ニ就

キ決議ヲナシ其實行ニ必要ナル代理人ヲ選舉ス

總會ハ新株發行定款ノ變更並ニ銀行解散合併ヲ決議ス但國家ノ認可ヲ留保ス

第五十二條 總會ノ議決ハ通常單純ナル多數決ニヨル新株ノ發行銀行業務ノ變更定款ノ變更會社ノ解散合併ニ關スル決議ハ決議ニ際シ代表セラレタル資本金ノ四分ノ三以上ノ多數ニ據ル

第五十三條 總會ニ於ケル各種ノ選舉ハ單純ナル多數決ニ據ル第一ノ投票ニ於テ單純ナル多數モ亦可否同數モ得ラレザルトキニアリテハ多數投票ヲ得タル者選舉セラルベキ員數ノ二倍ノ員數ノ小範圍ニテ相集リ選舉ヲ行フ猶可否同數ノ場合ハ議長ニヨリ抽カルベキ籤ニヨリテ決ス

第四章 貸借對照表利益分配及準備金

第五十四條 營業年度ハ曆年ニ從フ

貸借對照表ハ十二月三十一日ヲ締切トシ之ヲ作成シ損益計算書並ニ財産狀態其他銀行ノ狀態ヲ示スニ足ルベキ報告書ト共ニ次年ノ最初ノ三ヶ月

内ニ監査役ニ提出ス

監査役ハ検査役ト共ニ(第四十三條)決算書貸借對照表並ニ利益分配案ヲ審査シ且取締役ノ報告ニ備考ヲ附記ス

第五十五條 利益ハ下ノ如ク分配ス

甲最低五「パーセント」最高十五「パーセント」内ニ於テ總會ノ定ムル所ニ從ヒ法定準備金ヲ積立ツ尙舊定款ノ規定ニ從ヒ積立テタル準備金ハ第一ノ準備金ガ法定ノ額後ノ準備金ガ第一ノ準備金ヲ合セテ拂込資本金ノ五「パーセント」ニ達スル迄猶之ヲ積立ツ

乙拂込資本金ノ五「パーセント」マデ株主ニ對シ配當ス

丙甲ノ外取締役監査役ヨリ總會ニ提出サレ總會ニヨリ承認セラレタル控除金及積立金ヲ控除ス

殘餘金中ヨリ

丁五「パーセント」ヲ監査役ノ賞與金

戊五「パーセント」ヲ頭取々締役ノ賞與金トシテ除去シ監査役ノ定メタル割合ニ從ヒ分配ス

已殘餘金ハ第二配當金トシテ株主ニ分配ス

配當金及第二配當金ハ毎年遅クトモ七月一日ニ支拂フモノトス

第五十六條 法定準備金ノ積立及使用ニ付テハ商法ノ規定ニ從フ

舊定款ノ規定ニ從ヒ積立テタル準備金ヲ増加セントスルニハ第五十五條甲號及丙號ニ從フ此準備金ガ法定積立金ヲ合シテ拂込資本金ノ五「パーセント」ニ達シタルトキハ取締役及監査役ノ申出ニ基キ總會ハ此積立金ニ他ノ使途ヲ規定スルコトヲ得此場合ニ在テハ準備金ヘ利益組入レハ之ヲ停止ス其他一年ノ利益ニシテ拂込資本金ノ五「パーセント」ノ利益配當ヲナスコト能ハザルトキニアリテハ法定準備金ヲ合シテ拂込資本金ノ七「パーセント」以下ニ減少セザル限リ此準備金ヲ以テ五「パーセント」ノ配當ヲナシ得ルマデ補充スルコトヲ得

前記兩準備金ノ外取締役及監査役ノ申出ニ基キ總會ノ決議ヲ經テ利益中ヨリ(五十五條丙號)特別準備金ヲ積立テ配當ノ平均其他ノ目的ニ使用スルコトヲ得配當平均準備金トシテ在存スル繰越金ハ從前ノ通りトス

監査役ハ第五十五條及第五十六條ノ準備金ヲ割キテ法定準備金ヲ増加スベキコトヲ隨時指定スルコトヲ得但其指定ハ之ヲ取消スコトヲ得ザルモノトス銀行ハ準備金ヲ特別ニ放下シ又ハ特別ニ利子ヲ附スルコトナシ

第五十七條 銀行ハ毎月借方貸方ノ證明書及毎年貸借對照表ヲ官報ニ公告ス

第五章 解散及清算

第五十八條 銀行ガ法律ノ規定ニ從ヒ解散スル場合及他銀行ニ合併スルコトニヨリ解散スル場合ヲ除キ銀行ハ清算ヲ決議スルコトヲ得

此決議ハ臨時ニ此目的ノ爲メニ召集シタル總會ニ於テ之ヲ爲ス

此總會ニ於テハ第四十四條ノ規定ト異リ總會三日前株式ヲ會社ニ供托シタル株主ハ第四十五條第二項ノ制限ナク第四十五條ノ規定ニ從ヒ議決權

ヲ有ス議決ハ拂込資本金ノ三分二ノ代表アリ且決議ニ際シ代表セラレタル
ル資本金ノ四分ノ三ノ多數ニヨル

資本金ガ前記割合ヲ以テ代表セラレザルトキハ更ニ臨時總會ヲ招集ス此
總會ニ於テハ決議ニ際シ代表セラレタル資本金ノ四分ノ三ノ多數ヲ以テ
決ス

第五十九條 銀行解散若クハ清算ノ決議ハ國王ノ勅許ヲ要ス清算ハ當該法
律ノ規定ニ從フ

第六章 政府ノ監督

第六十條 帝國土地抵當銀行法第四條ニヨル銀行ニ對スル政府ノ監督ハ農
務大臣ノ指揮ノ下ニ監理官若クハ其代理者之ヲ實行ス

監理官ハ監督官應ヨリノ委任ヲ以テ同時ニ第二條第二項第三十三條乃至
第三十二條第四十一條第四十二條第一項丙號ノ規定ニ從ヒ保管人ノ任務
ヲ行フ

第七章 貸付

第六十一條 銀行ハ繼續的ニシテ確固タル收益アル土地ニ對シ抵當付貸付
ヲナス從テ鑛山石坑等ニ貸付ヲナスコトナシ

建築資金貸付ニアリテハ基礎工事ノ完成前ニ貸付金ノ支拂ヲ始ムルコト
ナシ中央債券ノ引當タルベキ且土地抵當銀行法ノ規定ニ從ヒ斯ノ如キ性
質ヲ有スル抵當權ハ該法律ニ從ヒ之ヲ抵當權登録簿ニ登記スルヲ要ス

第六十二條 銀行ハ通常第一抵當權ヲ取得スル場合ニアラザレバ貸付ヲ爲
サズ

貸付金額ハ土地價格ノ五分ノ三ヲ超過スベカラズ
耕地ニアリテハ土地所在ノ聯邦中央官廳ガ許可スル限り土地價格ノ三分
ノ二マデ貸付クルコトヲ得

葡萄園森林及其他ノ土地ニシテ其收益ガ植栽物ニ基クモノハ其價格ガ植
栽物ニ條件セラル、限リ價格ノ三分ノ一マデ貸付ヲナスコトヲ得監查役

ハ前記最高額ニ至ルマデ貸付ヲナスコトヲ得ザル土地及建物ノ種類ヲ規定スルコトヲ得

第六十三條 貸付ノ際承認セラル可キ土地價格ハ慎重ナル鑑定ニヨリ確定セラルベキ賣買價格ヲ超過スベカラズ此價格確定ニ際シテハ土地ノ秩序正シキ經營ニヨリ各所有者ガ繼續的ニ舉ゲ得ベキ收入ト及其繼續的ノ性質トノ二者ヲ基礎トスベシ

以上ノ原則ニ鑑ミ監査役ハ土地鑑定規則ヲ發布スベシ鑑定規則ハ監督官應ノ認可ヲ要ス

第六十四條 擔保地上ニアル建物ハ監査役ノ定メタル一般規定若クハ貸付契約中ニアル特殊規定ニ從ヒ火災ニ對シ保險ニ附スベシ

第六十五條 銀行ハ貸付ヲナス場合ニ債務者ガ明示的ニ同意スルトキハ現金ノ代リニ自己發行ノ債券ヲ額面ヲ以テ計算シ貸付金支拂ニ充ツルコトヲ得又其賣却ヲ手数料ヲ徴シテ引受ルコトヲ得

債務者ニ債券ヲ以テ貸付金ヲ支拂タルトキハ銀行ハ債務者ノ選擇ニ從ヒ現金又ハ貸付ニ際シ交付シタル債券ト同種類ノ債券ヲ以テ貸付金ノ返還ヲ爲シ得ベキ旨ヲ明ニ留保スベシ

銀行ハ千馬克以下ノ貸付ヲナサズ

第六十六條 銀行ハ貸付ヲ爲スニ年賦償還ノ方法即チ一定ノ濟崩ノ方法ニヨルカ年賦償還ノ方法ニヨラザル方法即チ或ハ不分割ノ額ヲ以テ或ハ漸次ニ返還スベキ方法ニヨル

第六十七條 年賦償還貸付ニアリテハ其返還年額ハ約束利子及元金償還額ヨリナルモノトス

利息ハ貸付金ノ償還ニ拘ハラズ最終年マデ同一額トス償還濟元金ニ對スル利息(過剩利子)ハ毎年計算シテ元金償還ニ充當ス

第六十八條 銀行ハ證書面ニ記載シテ契約年賦償還金ノ外帝國土地抵當銀行法第二十一條ニ從ヒ一部償還ヲナシ若クハ貸付金ガ猶全部償還セラレ

ザル限リ全部償還ヲナスベキ權利ヲ債務者ニ附與スベシ銀行ハ此權利ノ行使ヲ貸付金支拂後十年間禁止スルコトヲ得一部若クハ全部償還ニ際シテハ催告期間ハ九ヶ月ヲ超過スルコトヲ得ズ

年賦償還勘定ニ於テ各個借受者ノ債務ヨリ

甲年賦償還金ハ支拂後直ニ

乙過剩利子ハ第二半年ニ對シ支拂ハルベキ給付ノ支拂後直ニ(第六十七條)

丙其他ノ支拂ニアリテハ支拂後直ニ

償還アリタルモノトシテ控除セラルベシ

諸勘定ノ計算ニ際シ五片以下ハ切捨テ五片以上ハ之ヲ繰上グベシ

貸借對照表公表後請求アルトキハ前年末迄ニ償還セラレタル金額ニ關ス

ル報告ヲ債務者ニ交付スベシ

第六十九條 年賦償還貸付金ニアリテハ銀行ノ爲メニ催告權ヲ契約セシム

ルコトヲ得ズ但債務者ノ行爲ニ基キ期限前ニ抵當權ノ償還ヲ請求スル權

利ヲ取得スベキ契約ヲ爲スコトヲ妨グス殊ニ銀行ハ次ノ場合ニ於テ催告後三ヶ月間ニ貸付金ヲ返還スベキコトヲ契約スルコトヲ得

甲債務者ガ契約ニ從ヒナスベキ支拂及費用ヲ滿期日後六ヶ月内ニ銀行ニ

致サルトキ

乙擔保土地及其一部ニ對シ強制執行若シクハ強制管理又ハ之ニ類似ノ手

續ガ開始シタルトキ或ハ抵當權ノ効力順位ガ爭ハレタルトキ

丙債務者ニ對シ破産ガ開始シ若クハ裁判外ニ支拂停止アリタルトキ

丁擔保場ガ一部賣却セラレ若クハ數人ノ所有者ニ分割セラレ且抵當權ノ

整理ノ爲メ銀行ノ一致ガ得ラレザルトキ

戊擔保建物ガ契約額ヲ以テ火災保險ニ附セラレザルトキ

第七十條 貸付申込者ニ對スル送達ノ手續ハ民法ノ規定ニヨル

第七十一條 年賦償還方法ニヨラザル貸付ハ一定ノ時期若クハ催告期ヲ確

定シテ之ヲ貸付ルモノトス

債務者ノ返還權行使ハ十年間之ヲ禁止スルコトヲ得催告期間ハ九ヶ月ト
ス銀行ガ催告權ヲ有スル抵當權ニアリテハ銀行モ亦此催告期ヲ遵守セザ
ルベカラズ

第七十二條 抵當貸付ニ關シ尙必要ナル一般規定ハ監査役之ヲ決ス此規定
ハ監督官廳ノ認可ヲ要ス

第七十三條 銀行ハ何等理由ヲ示スコトナク貸付申込ヲ拒絕スルコトヲ得
第八章 債券

第七十四條 銀行ハ利息付債券ヲ發行ス其總額ニ對シテハ額面ニテ常ニ抵
當權登錄簿ニ登記シタル同額同利息以上ノ抵當權ノ引當存在セザル可カ
ラズ

債券ハ無記名トシ頭取若クハ取締役監査役ノ一員之ニ署名シ尙規定上ノ
抵當權ノ引當アルコトノ検査役ノ保證及保管人トシテノ監理官ノ保證(第
六十條第二項)アリ

中央債券ノ所有者ハ監査役ノ定メタル手数料ヲ支拂フトキハ債券ニ自己
ノ名義若クハ第三者ノ名義ヲ記入セシムルコトヲ得

第七十五條 中央債券ノ所有者ハ債券ヲ催告スルコトヲ得ズ之ニ反シ銀行
ハ債券ヲ催告スルコトヲ得銀行ハ十年以内ニ於テ償還權ヲ拋棄スルコト
ヲ得

銀行ハ中央債券ヲ償還スル場合ニハ全發行債券又ハ其一部ヲ催告スルカ
或ハ個々債券ヲ抽籤スル方法ニ據ル

第七十六條 債券利札及利札引換證ハ監査役ノ定メタル雛形ニヨリ監督大
臣ノ認可ヲ經テ之ヲ作成ス

内外國本位貨ヲ以テスル債券ノ額面及利率ハ監査役之ヲ決ス銀行ハ百馬
克以下ノ債券ヲ發行スルコトナシ

銀行ハ債券利札引換證及利札ニ保證アル外國語譯ヲ附加スルコトヲ得
第七十七條 銀行ハ半年毎ニ支拂フベキ利子ノ爲メニ債券ニ十年間ノ利札

及利札引換證ヲ附加ス引換證ノ交付アルトキハ銀行ハ新利札及引換證ヲ
交付ス利子支拂場所ハ取締役之ヲ公告ス

第七十八條 償還セラルベキ中央債券ノ抽籤ハ裁判官若クハ公證人ノ面前
ニ於テ之ヲナス

當籤番號償還ノ場所及時期ハ三回適當ノ時期ニ於テ獨逸帝國官報ニ公告
ス第一回ハ少クトモ利子支拂ヲ停止スベキ償還期六ヶ月前ニ之ヲ爲ス
償還ハ債券及滿期トナラザル利札ノ交付ニ對シテナスモノトス

抽籤償還ニヨルベキ中央債券ノ償還ハ額面ヲ以テス

第七十九條 償還濟中央債券ニハ頭取若クハ取締役監理官監査役及検査役
ノ面前ニ於テ無効ナル印章ヲ押捺シ且之ニ關スル記録ヲ作成ス

第八十條 銀行ハ抵當權登録簿ニ登記セラレタル抵當付債權ノ引當アラザ
ル債券ヲ發行スルコトヲ得ズ

第八十一條 中央債券ノ元利金ノ支拂ハ

一 抵當權登録簿ニ登記セラレタル抵當債權ニ依リ

二 銀行全財産殊ニ資本金及積立金ヲ以テスル銀行ノ絶對責任ニ依リ

確保セラル、モノトス保管人ハ銀行ト共ニ債權證書(第一號)並ニ帝國土地

抵當銀行法第二十二條ニ從ヒ登録簿ニ登記セラレタル有價證券ヲ債券所

有者ノ利益確保ノ爲メ保管ノ責ニ任ズ

破産ノ場合ニ於テ抵當債權ヨリ満足ヲ得ルニ就キ債券所有者ハ他ノ總テ

ノ破産債權者ニ優先ス

第八十二條 第十九條第二十條ノ規定ハ中央債券並ニ其利札及利札引換證
ニ適用ス

第九章 公法上ノ普魯西國公共團體ニ對スル貸付及輕便鐵
道會社ニ對スル貸付

第八十三條

甲公法上ノ普魯西國公共團體

第十章 普魯西中央土地抵當株式銀行定款

乙 獨逸輕便鐵道會社

ニ對スル貸付ニ對シテハ前二章ノ規定ヲ準用ス

監査役ハ輕便鐵道會社ニ對スル貸付ニ對シ標準タルベキ規則ヲ定ム本規則ハ監督官廳ノ認可ヲ要ス

第八十四條 以上ノ貸付額内ニテ銀行ハ(第五條)利息付抽籤又ハ無抽籤償還

ノ公共團體債券及輕便鐵道債券ヲ發行ス

引當タルベキ債權ハ公共團體債權登錄簿若クハ輕便鐵道債權登錄簿ニ登記スベシ

第一項ノ證券ニハ第七十四條ノ署名保管人タル監理官ノ保證(第六十條第二項)並ニ定款上ノ引當存在スル旨ノ檢査役ノ保證ヲ具フ

監理官ハ同時ニ引當タルベキ公共團體貸付ガ當該監督官廳ノ認可ヲ以テ締結セラレタルモノナルコトヲ保證スベシ

保管人タル管理官ハ銀行ト共ニ共同シテ引當タルベキ公共團體貸付證書

及輕便鐵道貸付證書ヲ各別ニ保管ス

其他上記ノ債券ニハ中央債券ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一章 最近十年間ニ於ケル土地抵當株式 銀行ノ狀況

帝國土地抵當銀行法ハ千九百一年一月一日獨逸民法々典ト同時ニ施行セラレ獨逸ニ於ケル土地抵當銀行ノ發達史上ニ一新紀元ヲ劃スルモノナリ立法者ノ目的ハ銀行ニ聚積スル資本ノ安全ヲ圖ルニアリテ嘗テ債券ノ所有者ハ民法附屬ノ諸規則ニヨリ銀行ノ抵當權ニ就テ保管人ニ依リ監督セラル、優先權ヲ有シ亦包轄的ナル法律ノ規定並ニ銀行ノ業務執行ニ關スル政府ノ監督等ニ依リ其權利ヲ保護セラレシガ本法ノ施行ニ依テ更ニ一段ノ安全ヲ加ヘタリ左ニ同法施行以來十年間ニ於ケル土地抵當銀行發達ノ狀況ヲ述ブベシ

第二、資本金準備金及營業利益

帝國法施行當時獨逸ニ於ケル土地抵當銀行ハ既ニ之ヲ述ベタル如ク其數三

十九ニテ最古ノモノハ千八百六十二年ノ創立ニ係リ最近ノ十行ハ最後ノ十年間ニ創立セラレタリ其地理的分布ヲ按ズレバ中十四行ハ普魯西ニ十一行ハ南獨逸諸邦ニ爾後ノ諸行ハ索遜及北獨逸ノ小邦内ニアリ帝國土地抵當銀行法ガ一度帝國内ニ於ケル營業區域ノ制限ヲ撤廢スルヤ各銀行ハ一齊ニ其營業區域ヲ擴張シテ假令小國ニ存在シテ地方的組織ヲ有スルニ過ギザルモノモ其領域ヲ超エテ無制限ナル發展ヲ試ムルコトヲ得ルニ至レリ

帝國土地抵當銀行法ニ據レバ土地抵當銀行ハ營業ヲ開始セントセバ聯邦參議院ノ許可ヲ要スルノミナラズ設立ノ特許ヲ受ケザルベカラザルモノニシテ起草委員ノ一致セル説明ニ依レバ此特許ハ設立ヲ必要ト認メタル場合ニ非レバ許與セラレザルコト明ナレバ帝國法ハ既存土地抵當銀行ニ對シ一種ノ獨占權ヲ與ヘタルモノト謂フコトヲ得ベシ從テ帝國法實施以來完全ニ設立セラレタルモノハ「ヘッセン」大公國ニ於ケル「ヘッセン」土地抵當銀行ノミニシテ嘗テ三十九ヲ算シタル銀行中其後閉鎖シタルモノ數行アリシヲ以テ結

局帝國法ニ基ク土地抵當銀行ハ三十七行ニ減少セリ
千九百年以來十年間ニ於ケル土地抵當銀行發達ノ狀況ヲ計數ヲ以テ按ズレ
バ次ノ如シ

	資本金	積立金	不動產抵當及 公共團體貸付	債券發行高
千九百年	五八五、八九七、五七四	一八四、九六六、九六七	六、八二二、八八一、五一三	六、四三二、五九三、五六〇
千九百九年	一六七、一九九、九一四	三六、一六三、一四〇	一〇、五四二、五四五、九六〇	一〇、〇四三、一〇五、七七〇
比較増加	一八一、三〇二、四四〇	一七六、六六九、一七三	三、七七八、六六四、四四七	三、六一〇、五二二、一一〇

即チ十年間ニ資本金ハ約一億八千萬馬克積立金ハ約一億七千萬馬克ヲ増加
セシガ營業ノ爲メ放出セラレタル貸付及之ニ對スル債券發行高ニ至リテハ
約三十七億馬克ヲ増加シ資本金ハ三分ノ一積立金ハ二倍積立金ハ千九百年
ニハ資本金ノ三割一步六厘ナリシガ千九百九年末ニハ四割七分一厘トナレ
リセルニ對シ營業資金ハ約四分ノ二半ヲ増加セリ
營業ノ發達ハ右ノ如ク顯著ナルニ拘ラズ營業利益ハ現今ニ於テモ十年前ト

大差ナク千八百九十九年ノ配當率平均八步八毛ニ對シ千九百九年ノ平均配
當率ハ八分四厘五毛ニシテ積立金ヲ資本金ニ加ヘ配當率ヲ算出スルトキハ
十年間ノ平均ハ六步ニ過ギザルナリ
土地抵當銀行ノ發達ハ右ノ如クナリト雖モ之ヲ普通信用銀行ノ發達ニ比ス
レバ頗ル遅々タルヲ免レズ千九百六年ノ資本額ハ二十七億三千万馬克ニシ
テ積立金ハ三億七千万馬克ヨリ六億四千万馬克ニ増加シ其貸借項目ノ貸方
及預金引受等ニ現ハレタル營業資金ノ總額ハ三十九億五千万馬克ヨリ百億
八千万馬克ニ増加シ其増加率ハ土地抵當銀行ノ四分ノ二半ニ對シ一倍半ヲ
示セリ是レニ由テ觀レバ土地抵當銀行ノ發達ハ一般銀行業ノ發達ニ依リト
スルコトヲ得ル經濟界ノ進歩ト歩調ヲ一ニスルコト能ハザリシコトヲ知ル
ベク是レニ帝國土地抵當銀行法ノ獨占的規定ノ結果ナリ
個々ノ土地抵當銀行ノ消長ハ各行全然其趣ヲ異ニシ中ニハ帝國法實施後幾
何モナクシテ起レル經濟界ノ激變ノ爲メニ解散或ハ減資ノ止ムナキニ至レ

ルモノアリ即チ獨逸土地債務銀行ハ解散シ普魯西「ボンメルン」メクレンブルグ、ストレーリツツノ三土地抵當銀行ハ其組織ヲ改造シ債券ノ發行高及資本ヲ減少シ以後頗ル不況ニ沈淪セシモ現今ニ至リテ漸ク舊時ノ状態ニ復スルニ至レリ更ニ近時ニ於テハ南獨逸ノ諸行中不況ニ陥ルモノ多ク「ウエルツプ」ルヒニ於ケル「バイエルン」土地信用銀行ハ其管理上ノ違算ヨリ衰運ヲ招キ其他二三ノ小銀行亦之ト運命ヲ同フセリ然ドモ土地抵當銀行ノ大多數特ニ大銀行ハ次第ニ發達シ來リ中小銀行ト雖モ其營業ヲ二倍ニ擴張セルモノ尠カラズ個々ノ土地抵當銀行ノ發達ハ帝國法ノ是等ヲ俟ツニ一樣ナル法規ヲ以テシタルニ拘ハラズ特別法ノ存在ニ依テ各行間ニ存スル經濟状態ノ相違ハ毫モ調和セラレズ各種各様ノ發達ヲ遂ゲタリ(混合土地抵當銀行純粹土地抵當銀行參照)

第二 債券

債券發行高ノ増加ハ銀行業務繁昌ノ前提ニシテ銀行ハ債券發行ノ極限迄其

業務ヲ擴張スルコトヲ得ベシ法律モ亦償還ノ請求相次デ來リ銀行ノ利益ヲ害スルコトナカラシメシガ爲メ債券所有者ニ催告權ヲ與フルコトヲ禁止セルコトハ既ニ述べタルガ如シ

然ドモ此特典ハ時勢ノ推移ト共ニ姿ヲ變ジ土地抵當銀行ハ例外ナク日々ノ取引ニ於テ買戻ノ提供ヲ受クルトキハ自己發行債券ニ對シ常ニ之ニ應ズルノ準備ヲ整ヘ株式取引ノ習慣ニ從ヒ買戻ニ於テモ相場ヲ定ムルニ至リ從テ此商習慣ニ從テ日々取引所ニ於テ第三者タル購買者モ買戻人タル銀行モ一定ノ相場ヲ以テ賣却者ヲ見出スコトヲ得ルニ至テ債券ハ安全ナル資本家ノ放資物トナリ其相場モ帝國及聯邦公債ト大差ナク僅カニ之ガ下位ニ在ルニ止マルニ及ベリ茲ニ於テ經濟界一般ノ變動ハ債券相場ニ影響ヲ及ボスコト次第ニ強ク殊ニ一般利率ノ高低ハ最大ナル影響ヲ及ボスニ至レリ最近ニ於テ一般經濟界ノ資金需要増加シ金融界繁忙ヲ來タスヤ管ニ曩ニ發行セラレタル四歩利以下ノ債券相場ノ低落ヲ生ジタルノミナラズ四歩利以下券ノ債

ヲ發行スルコト能ハザル状態ヲ呈セリ從テ新ニ發行セラル、債券尠カラズト雖モ低利債券ノ存在高ハ其増加割合甚ダ僅少ナリ即チ千九百年ヨリ十年初迄ニ四歩利及四歩利以上ノ債券ハ二十四億三千二百萬馬克ヨリ五十八億七千萬馬克ニ増加セルニ四分利以下ノ低利債券ハ三十九億九千九百萬馬克ヨリ四十一億六千四百萬馬克ニ上リタルニ止ル

土地抵當銀行債券ノ發賣ハ通常取引所ニ依ル外主トシテ銀行及銀行家ノ仲介ニ依ルヲ以テ債券ノ賣却總高ハ一般市場ノ状態ニ依ルモノトセバ各土地抵當銀行ノ賣却總高モ亦一ニ仲間銀行ノ能力ト意向トニ懸レリト謂フベシ是レ實ニ最近十年間ニ於テ銀行業及債券發行業務ノ集中的傾向次第ニ現ハレ來レル所以ナリ斯ノ如クニシテ多數支店ヲ有セザル土地抵當銀行ハ大普通信用銀行ニ結合シ以テ自己ノ株券債券ノ賣却ヲ容易ナラシメ結合シタル大銀行ノ理事者ハ併合シタル土地抵當銀行ヲ指揮シ其理事者ヲ決定スルニ至レリ現今猶終熄セザル大銀行ノ勢力範圍擴大ノ趨勢ガ那邊ニ迄及ブベキ

カハ茲ニ論ズベキ問題ニ非ザルモ土地抵當銀行ハ此結合ニ依テ其地位ヲ安固ニセルハ疑フベカラザルガ如シ之ヲ事實ニ徵スルニ帝國法實施後ノ第一年ニ於ケル經濟界ノ激變ニ因リ動搖ヲ來シタル土地抵當銀行ハ其營業上全然獨立シタル大銀行ノ指揮及補助ヲ仰ガザルモノナカリキ

第三 貸 付

土地抵當債券ノ發行ニ依リ得タル資金ハ法律ノ規定ニ從テ不動産ニ對スル抵當貸付ニ放下シ公共團體債券ノ發行ニヨリ得タルモノハ公共團體ニ對シテ貸付ザルベカラズ法律ハ債券所有者ノ安全ヲ圖リ特別ノ規定アル場合ノ外債券ノ發行ニ直接必要ナラザル其他ノ貸付ヲ禁止セリ今左ニ此規定ガ如何ナル程度迄實行セラレツ、アルカヲ研究スベシ

千九百年ニ於ケル土地抵當銀行ノ貸借對照表ニ據レバ直接土地抵當貸付及公共團體貸付ニ放下セラレザル額ハ僅々三億九千三百萬馬克ニ過ギズシテ中二億八千萬馬克ハ現金帝國及聯邦國債手形及貸付勘定ニシテ三千三百

萬馬克ハ自己ノ債券在高二千萬馬克ハ銀行ノ建物價格ニシテ殘額五千九百萬馬克ガ一般銀行業務上ノ貸付其他ノ貸付トナル而シテ營業上ヨリ所有スルニ至レル土地價格ハ百六十二萬馬克ニ過ギズ故ニ純粹土地抵當銀行ノ營業此等ノ副業ハ法定ノ範圍内ニ於テ適當ニ營マレ單ニ法律上許可セラレタル貸付及交互計算ノ如キ過去ノ放資又ハ債券購買者トノ取引ヨリ生ジタル業務ヲ狭キ範圍ニ於テ營ムノミ純粹土地抵當銀行ノ規則正シキ放資ハ右ノ如ク土地抵當貸付及公共團體貸付ニ集注セラル、ヲ以テ其他ノ業務ヨリ生ズル危險ヲ蒙ルガ如キコトナシ而シテ右ニ述ベタル副業ヨリ生ジタル借方ハ七千七百萬馬克ニシテ之ニ對シテハ直ニ融通シ得ベキ二千七百萬馬克ノ現金一億三千四百萬馬克ノ帝國及聯邦公債八千四百萬馬克ノ貸方勘定合計二億八千百萬馬克ヲ有セリ公共團體ニ對スル貸付ハ放資業務中特殊ノ部門ヲ爲スモノニシテ過去十年間ニ於ケル此業務ノ發達ハ約四倍シ千九百十年初ニ於ケル貸付總額ハ三億千四百萬馬克ナリキ然ドモ之ニ關係セル銀行

ハ僅カニ十六行ニシテ中半額以上ハ普魯西中央土地抵當銀行及普魯西債券銀行ノ占ムル所ナリ加之公共團體ヨリ直接發行セラレタル債券ノ總額ガ千九百年後三十四億四千四百萬馬克ヨリ九十三億九千三百萬馬克ニ増加シタルニ對比セバ土地抵當銀行ノ公共團體貸付業務ハ經濟上次第二重要ナラザルニ至ルベシ

抑々土地抵當銀行ハ公共團體ニ低利資金ヲ供給シ得ベキ地位ニアルモノニ非ズ普通信用銀行ノ補助ヲ仰ギ債券ヲ發行シテ一般金融界ヨリ貸付資金ヲ得ルニ過ギザルヲ以テ四歩利債券ニアラザレバ市場ニ發行スルコト能ハザル間ハ損失ヲ避ケンガ爲メ公共團體ニ四歩以上ノ貸付ヲ爲サルベカラズ假令一國內ニ於テ「ミューンデルデツヘルハイト」ノ特典ヲ有スル公共團體債券ヲ高價ニ賣出スモ新税法ノ賦課以來特ニ増加セシ債券發行費用ノ増加ヲ償フニ足ラズ從テ銀行ガ損失ヲ蒙ムルヲ欲セザレバ勢之ガ補償ヲ資金ノ需要者ニ求メザルベカラズ故ニ小公共團體ニシテ自ラ債券ヲ發行スルコトヲ欲

セザルモノモ公立的若クハ相互的金融機關其他ニ融通ヲ仰グモノアルニ至レルヲ以テ土地抵當銀行ノ公共團體貸付ハ双方ニ利益ナク結局其發達ヲ期待スルコト能ハザルニ至レリ事實上ノ關係斯ノ如クナルヲ以テ公共團體ノ理事者ト土地抵當銀行ノ管理者トハ屢々協商ヲ重ネ一定ノ原則ヲ設ケ益々公共團體貸付ヲ營マント試ミシモ悉ク失敗ニ終リシハ毫モ怪シムニ足ラザルナリ左レバ茲ニ特殊ナル公共團體貸付銀行ヲ生ジ公共團體ニ低利資金ノ融通ヲ容易ナラシメ土地抵當銀行ノ公共團體貸付ガ漸次制限サル、ニ至ルベキカハ全ク將來ノ趨勢如何ニ依テ決セラレベキ問題ナリトス

土地抵當銀行ノ純粹ナル土地抵當貸付業務ハ千九百九年九十七億五千二百萬馬克ノ債券額面ニ對シ約百億馬克ノ引當抵當權ヲ算セリ此抵當物件ノ收益能力及價格ハ債券所有者ノ放下資本及利子並ニ銀行自身ノ安否ノ懸ル所ナリトス

千九百九年ノ營業報告書ニ徵スルニ十三行ハ其償還引當ノ抵當權中ニ收穫

ナキ土地建物敷地及建築中ノ建物ニ對スル抵當權ヲ有セザリキ然ドモ其他ノ銀行ニ就テ保管人ノ保管スル抵當權中ニハ猶六千九百萬馬克ノ此種ノ抵當權アリ而シテ中三千五百萬馬克ハ南獨逸ノ混合土地抵當銀行ニ屬ス純粹土地抵當銀行ノ所有ニ係ル此種ノ抵當權ハ三千四百萬馬克ニシテ中千三百萬克ハ千九百一年ノ恐慌ニ遭ヘル銀行ノ抵當權ニシテ實價以下ニ見積ラレタルモノナルヲ以テ債券ノ安全ニ付危險ヲ生ズベキ虞アル收益ナキ土地ヲ目的トセル抵當權ハ儘々二千百萬馬克ニ過ギズ故ニ現世紀ノ劈頭ニ於テ土地抵當銀行ヲ襲ヘル恐慌ハ最早再來ノ憂ナカルベキナリ

建築資金貸付業務ハ一般ニ債券ノ擔保ニ供セラレズ從テ其額モ大ナラズ千九百十年初自由抵當權總額ハ約二億馬克ニシテ中小部分ハ建築敷地ニ對スル抵當權ヲ含メリ此等ノ抵當權ハ營業上ノ都合ヲ顧慮シテ法律ノ強制ノ有無ニ關セズ債券ノ擔保ニ供セズ此中約一億馬克ハ支拂未濟ノ分ニ屬ス而シテ大仕掛ニ此種ノ業務ヲ營メルハ僅カニ數行ニ過ギズシテ其一行タルメク

レンブルグ土地抵當手形銀行ノ此種自由抵當權最高額ハ千五百五十萬馬克ナリ右ノ研究ハ銀行ノ經濟上頗ル重要ナルモノニシテ本來銀行ハ收穫ナキ土地ノ投機ニ其貸付金ヲ割クベキモノニ非ズ小額ナル一時的ノ貸付ヲ除キ銀行ガ此種ノ業務ニ關係セルハ普通耕地ガ貸付後建築敷地トナリ或ハ經驗上未成ノ建物ヨリ生ズル收益ガ確實ナルモノトシテ長期ニ亘ル貸付ヲ測定セラレタルモノニシテ一般ニ投機的ノ理由ニ出デタルモノナシ帝國法ノ實施ニ至ル迄建物敷地及新ナル建物ニ對スル引當抵當權及自由抵當權ハ約四億馬克ヲ算セシガ實施後ニハ約半額ニ減ジ且其大部分ハ全部ノ支拂ヲ了シタル確定抵當權ニ非ズ抑モ土地抵當銀行ニ依リ營マルル此種ノ建築資金貸付ハ經濟上健全ニシテ土地融通ニ缺クベカラザルモノナリト雖モ此業務ヲ擴張スベキヤ否ヤニ就テハ土地抵當銀行ハ未ダ全部實施ニ至ラザル帝國法建築債權者保護ニ關スル規定ノ如何ニ俟ツモノ、如シ

第四 政府ノ監督

債券所有者ノ放下資本ハ十年前二億馬克ニ對スル三億馬克ノ過剩準備ヲ以テ帝國法ノ規定ニ從ヒ貸付ラレ政府ノ任命シタル保管人ニ依リ管理セラレタル抵當權ヲ有シタリシガ之ヲ確保センガ爲メ特ニ抵當權ノ管理行爲ノ集中銀行間ニ行ハレ同時ニ政府ノ此擔保ニ對スル監督モ漸次嚴密ヲ加フルニ至レリ

帝國土地抵當銀行法ハ銀行ニ保有スル抵當權ノ時價ノ判斷ニ關スル報告ヲ要求スルヲ以テ各土地抵當銀行ハ其營業報告書中ニ強制競賣ノ結果ノミナラズ抵當トナレル土地ノ價格ニ對スル抵當權ノ割合ヲ明ニセンガ爲メ貸付土地ノ自由賣買ノ結果ヲモ報告セリ而シテ此等ノ報告ニヨリテ觀ルトキハ抵當權價格ハ漸次安固トナル傾向ヲ來セリ即チ千九百年ノ報告ニ徵スルニ三十行ニ於テハ賣却シタル土地ノ價格ニ對スル抵當權ノ割合ハ六割四步ニシテ二十二行ハ六割ニ止リ設立古キ純粹土地抵當銀行ニ在テハ賣買價格ノ四割四步ニ下レリ此統計ハ獨逸ノ經濟上ノ發達ニ基ク地價ノ騰貴ニ照應ス

ルモノニシテ各銀行ニ對シテ貸付及抵當權ノ起源ヲ遡ルニ從ヒ益々其安固ヲ加フルノ自然ノ結果ヲ生ジタリ

國家ノ監督ハ已ニ帝國法實施後ノ初年ニ現ハレタル恐慌ニ際シ其効力ヲ證シタルモ常時ニ於テモ亦管理ノ失策ヲ匡正シ或ハ銀行ト協力シ或ハ其權力ヲ以テ組織ノ改造ヲ圖リ全土地抵當及債券市場ノ動搖ヲ防止セリ帝國法實施以來聯邦各國ノ監督官ノ間ニ漸次意見ノ一致ヲ來シ法律上ノ監督ヲ個々銀行ノ全營業ニ立入りテ有効ナラシメンガ爲メ特別ノ組織及規程ヲ協定シ繼續セル一様ノ監督ヲ爲シ來リシモ各國ニ於ケル監督ノ統一監督ノ結果ノ集成及公告法規並ニ監督ニ對スル訴願ニ對スル裁斷等ニ就キ益々缺陷ヲ感ズルニ至リ終ニ數年前ヨリ保險會社ニ就キ存スルガ如キ監督官廳ノ設立運動ヲ見ルニ至レリ

右ノ監督上ノ運動ハ一面ニ於テ土地抵當銀行ノ結合ヲ獎勵シ立法上又ハ經濟上ノ意見ノ發表ニ際シ土地抵當銀行ノ代表者トナルベキ獨逸銀行及銀行

業者中央組合ノ一部局タル土地抵當銀行ノ常設委員ヲ產出セリ此外營業方法ノ統一ヲ期セントシタル運動ハ今日迄失敗ニ終リシモ各銀行間ノ業務上ノ關係ハ漸次密接シ此傾向ハ銀行相互ノ支拂ニ代ルベキ手形取引及手形ノ交換上ニ現ハレ數年前帝國銀行ニ創立セラレタル決濟事務ハ土地抵當銀行ニ屬スル分ニ就テハ其効力ヲ減殺セシムルニ至レリ然ドモ今後益々痛切ナルベキ共同ノ利益ト大普通信用銀行ニ從屬スル傾向トガ特別業務ヲ營メル此等銀行ノ全部或ハ一部ノ一層強固ナル結合ヲ生ズベキカハ新ナル變遷ニ俟タザルベカラズ

第五 概 說

帝國法實施以來最近十年間ニ於ケル發達ヲ通觀スルニ極メテ穩健ナル進歩ヲ遂ゲタルガ如シ法律ハ其實施ニ臨ミ第一ノ目的トシテ債券ニ放資セラレタル資本ノ安全ヲ期シ第二ニ銀行ニ資金ヲ要望スル土地所有者ノ利益ヲ保護スベキヲ目的トシタリ故ニ銀行ノ發達ハ一ニ立法者ノ趣旨ニ適應シテ債

券ニ放資シタル民衆ノ貯蓄資本ノ絶對ノ安全ヲ期セントシ政府ノ意向モ土地抵當銀行ニ適用セラルベキ該法規モ悉ク本問題ニ集中セラレタルノ觀アリ之ヲ事實ニ徵センカ政府ハ土地抵當銀行ヲ以テ直ニ其債券所有者ノ財産拾集者並ニ管理者ナリト解釋シ「タロン」税ノ形式ヲ以テ帝國財政法規ノ新ニ制定セラル、ヤ資本家タル債券所有者ニハ之ヲ課セザルノ奇觀ヲ呈シ債務者ノ負擔ヲ増加セシムルニ至リシガ如キモ亦此結果ニ外ナラズ

最近ニ於ケル傾向ヲ觀察スルトキハ土地抵當銀行ノ市街地貸付モ亦漸次制限ヲ蒙ル傾向ヲ生ズルニ至レリ即チ土地抵當銀行ノ貸付利率ハ債券利率平均三步七厘二毛ニ對シ四步二厘ニ過キズシテ此中ニ手数料及其他ノ費用ヲ含メルモ印紙税及營業費等ヲ含マザレハ之ヲ個々ノ貸付ニ就テ考フレバ利潤ハ幾何モナク辛ジテ勞費ヲ補フニ足ルニ過ギザルニ至リタルノミナラズ建築資金貸付ニ在テハ一層有力ナル多クノ資金供給者即チ零碎ナル資金ヲ吸集シテ低利資金ヲ供給スル貯蓄金庫適當ナル收益ヲ求ムル巨額ノ資金

ヲ擁スル公私保險會社又ハ自國ニ於ケル低利ヲ避ケ一層多大ノ利益ヲ收メントスル外國會社ノ如キモノ土地抵當銀行ニ比シ短日月ニ著シク發達シ百億馬克以上ノ資金ヲ放下スルニ至リタルヲ以テ土地抵當銀行ノ此種貸付ハ次第ニ減少スル傾向ヲ生ジ年十五億ノ需要ニ對シ僅カニ其三分ノ一ニ過ギザルニ至レリ又大都市ニ於ケル商館倉庫「ホテル」劇場及小工業ニ對スル貸付ハ法律ノ制限以内即チ住屋的價格ノ六割以下ノ貸付ニ在テハ到底希望者ヲ満足セシムルニ足ラズ又純粹ナル住屋ノ建設ニ對スル資金モ政府ノ社會政策ニ關スル規定上株式銀行ガ此貸付ニ參與スルコトニ能ハザルニ至レリ之ヲ要スルニ最近ニ於ケル經濟上ノ發達ハ土地抵當銀行ヲシテ都市信用ニ對スル唯一ノ機關タラシメザルニ至リシノミナラズ國家ノ監督嚴密ヲ加ヘ其責任モ増大スルニ從ヒ變通ヲ缺ケル法規ノ拘束ヲ受ケ漸次小貯蓄者ノ爲メニ存スル貯蓄金庫ノ性質ヲ帶ビ來リ其土地抵當貸付モ普通信用銀行ノ仲介ニ依テ得タル資金ヲ最モ安全ナル方面ニ放資スルヲ以テ唯一ノ目的トナ

スニ至リ遂ニ政府ノ指導及保證ノ下ニ銀行ノ發達ヲ期スルノ状態トナレリ

第三編 結論

獨逸國ニ於ケル不動産ニ對スル金融制度ノ發達ヲ通覽スルトキハ尙各種ノ事情ニ應合セシムル爲メニ他ノ種々ナル金融制度ヲ想像スルニ難カラズ一國經濟上ノ利害ヨリ觀察ヲ下ストキハ現在ノ土地金融制度中最モ其効蹟ヲ擧ゲタルモノハ孰レニアリヤトイヘバ先ヅ組合組織ノ基礎ノ上ニ設立セラレタル土地金融協會及對物信用ヲ唯一ノ目的或ハ主要ナル目的トナス株式銀行ヲ擧ゲザルベカラズ次ニハ中央獨逸國ニ於ケル小聯邦ニ散在スル國家的機關ヲ數フベシ尤モ後者ハ其範圍狹少ニシテ専ラ耕地ニ對シ其任務ヲ遂行シタルモノニシテ前者ノ如キ大効蹟ヲ有セズト雖モ亦輕々ニ看過スベカラザルコトハ既ニ前述セル所ノ如シ凡ソ組織的土地金融機關ハ其組織ノ如何ヲ問ハズ何レモ其貸付ニ要スル資金ヲ債券ニ得ルモノニシテ債券ハ銀行ノ取得セル巨額ノ抵當權ヲ變形シテ流動的證券トナシ民衆各階級ヲシテ

其證券ヲ買フコトニ依テ間接ニ土地抵當貸付ニ參與セシムルモノナリ其結果トシテ獨逸國ニ在テハ土地ノ融通運轉ヲ便ニセシコト甚ダ顯著ナリ土地金融制度ノ土地所有者ニ與フル利益ハ資金ヲ得ルノ迅速ニシテ且容易ナルコト催告ニヨリ生ズル危險ヲ限局シ又ハ全ク之ヲ除クコト其債務ヲ漸次履行シ得ルコトノ三點ニアリ此組織ニヨリ土地所有者ハ容易ニ必要ナル資金ヲ好條件ヲ以テ求ムルコトヲ得ベク從テ土地金融ニ關スル金利ヲ一般ニ低落セシメタルコト疑フベカラズ

土地抵當株式銀行ハ他ノ組織ガ狹少ナル範圍ニ於テ主トシテ耕地ニ對スル貸付ヲ爲スニ反シ多數ハ其營業區域獨逸全國ニ亘リ活動甚ダ見ルベキモノアリシ結果遂ニ經濟上優勝ナル地位ヲ占ムルニ至リ十九世紀中葉ニ於ケル社會進歩ノ必要ニ應ジ都市ノ發達ニ貢獻シタルコト甚ダ顯著ナリキ然ドモ最近ニ於ケル傾向ヲ觀察スルトキハ株式銀行ノ市街地貸付ハ前述セル如ク各種ノ事情ニ依リ制限ヲ受クルニ至リタルノミナラズ他方又貸付ニ

際シ要スル多額ノ諸費用ハ貸付額ノ大ナル場合ニ非レバ到底土地抵當銀行ノ金融ニ依ルコト能ハズ從テ耕地ノミナラズ小中都市ニ於ケル土地ハ土地抵當銀行ノ放資目的トシテ不適當ナルモノトナリ人口壹萬以下ノ人口ヲ有スル都市ニ在テハ年賦償還方法ノ利益ニ浴スル能ハズ且金融逼迫セル時ニ於テハ金融ヲ得ルノ途ニ乏シク近時ニ至リ再ビ土地抵當株式銀行以外ニ更ニ土地金融組織ヲ求ムルノ必要ヲ唱フルモノ尠カラザルニ至リシモ蓋シ必然ノ勢ナリトス

次ニ最近土地金融新組織ニ關スル議論及新組織ヲ紹介シテ此報告ヲ終ラントス

土地金融新組織ヲ唱導スル論者ノ大部分ハ現在ニ於ケル土地信用制度ノ缺點ヲ有償的ニシテ配當ヲ得ントスル大資本ノ組織ニ依ルニ在リト爲スト雖モ彼等ノ主張スル制度ハ其實行ノ點ニ於テ疑問ヲ存スルモノ多シ
土地抵當銀行ハ其組織上高キ配當ヲ得ントスルハ爭フベカラザル事實ナル

ヲ以テ組合的相互主義ニ立ツ新組織ヲ作ラントスル議論アリ
 此議論ノ理想トスル所ヲ觀ルニ市街地ニ對スル金融組織ハ宜シク其範ヲ土
 地金融協會及伯林及「ダンチヒ」ニ在ル市街地融通所ノ組織ニ採ルベシ即チ金
 融ヲ得ントスル土地所有者ヲ以テ組織シ債券ノ發行ヲ爲シ而シテ公吏ヲシ
 テ其事務ヲ管掌セシムル制度ヲ以テ最モ適當ナル組織トスベシ組合的基礎
 ハ株式組織ニ依ル制度ノ企及スベカラザル種々ノ利益ヲ有ス就中營業費ヲ
 減ジ比較的低廉ノ資金ノ融通ヲ爲スコトノ一事ハ營利會社ノ及ブ所ニ非ズ
 年賦金ハ出來得ル丈低廉ナル利子ニ元金ノ千分ノ五ヲ加ヘタルモノトシ其
 千分ノ五ノ中千分ノ二ヲ管理費トシ千分ノ三ヲ以テ元金ノ償還ニ充當スベ
 シ又其抵當權ハ第一抵當タルベク貸付ハ利息支拂ニ何等ノ延滞ヲ來ササル
 限リ絶對的ニ債券者ノ側ヨリスル催告ヲ禁止シ經濟上ノ危機又ハ金融逼迫
 ニ際シ債權者ヨリ催告ヲ受クル危險ヲ防止スベシ又第一抵當權者ヨリスル
 催告ノ禁止ハ第二以下ノ抵當權ニ利益ヲ與フベシ即チ第二抵當權者ハ第一

抵當權者ノ強制執行ニ因テ自己ノ債券ニ損害ヲ及ボスガ如キ場合ヲ生ズル
 危險ヲ免レ又第一抵當權ハ年々幾分ノ償還アルヲ以テ第二抵當權ハ漸次其
 抵當權ノ安固ヲ益スコトトナル等是レナリ從テ此等ノ利益ハ第二以下ノ抵
 當權ノ設定ヲ容易ナラシムベシ債券發行引當抵當權ハ確固タル基礎ニ基キ
 爲サレタル火災保險評價或ハ自己ノ爲シタル評價ノ半額迄或ハ家屋稅法ニ
 據ル收入ノ十二倍半マデ貸出ヲ爲スベシ債券ハ三步三步半又ハ四步ヲ以テ
 發行シ貸付金ハ常ニ債券ヲ以テ貸付ケ又債券ヲ以テ返済ヲ受クベシ故ニ此
 制度ニ依ルトキハ三步半若クハ三步ヲ以テ金融ヲ得ルコト、ナル可ク斯ノ
 如キ貸付其額ヲ増大スルニ於テハ一般金利ノ低落ヲ來スベシ
 又此機關ハ州ト密接ノ關係ヲ有セシメ設立ニ必要ナル資金並ニ數年間監理
 費用ノ保證ヲ引受シムルコトヲ期スルヲ以テ公吏ニ依リ其事務ヲ管理セシ
 ムルコトハ債券ノ信用ヲ高メ株式資本又ハ準備金ニヨリ擔保セラル、場合
 ト比較スベクモアラザルベシ而シテ斯ノ如キ組織ヨリ間々生ジ得ベキ業務

ノ專制ヲ防止センガ爲メ定款ノ規定ヲ以テ債券所有者ヲ監査役トシ總會ニ於テ必要ナル發言權ヲ有セシムベシト

「ブランデンブルグ州々廳及州會ハ斯ノ如キ計畫ヲ諒トシ該州内ニ於ケル各都市ノ市長ニ諮問シテ此種機關ノ要否及定款ノ規定ノ適否ニ付意見ヲ發表スベキヲ以テセリ之ニ對シ各都市ノ意見ハ提案ニ反對セリ次デ千八百九十八年ノ州會議モ亦州ニ密接ノ關係ヲ有セシムルノ案ヲ否決シタルヲ以テ此計畫ハ幾分ノ變更ヲ爲スノ必要ヲ來セリ

今此制度ノ利害ヲ考フルニ土地金融協會ノ原則及經驗ヲ移シ以テ組織ノ基礎トナサントスルノ計畫ハ耕地及市街地ニ於ケル事情ヲ度外視スルモノニシテ殊ニ土地金融協會ニ於ケル貸付規定ハ其確實ナル點ニ於テ固ヨリ批難ヲ容ル、ノ餘地ナシト雖モ最早今日ノ事情ニ適應セズ早晚改良ヲ要スルモノトセラル、ニ於テヲヤ年賦償還ノ方法ノ如キモ都市貸付ニ對シテハ耕地ニ於ケルガ如ク重要視セラルベキモノニ非ズ此方法ヲ絶對ニアラユル貸付

ニ使用セントスルハ亦誤リノ甚ダシキモノト稱セザルベカラズ且債務關係ノ累ナキハ耕地ニ在テハ望マシキコトニ屬スト雖モ都市ニ在テハ斯ノ如キハ到底望ムベキニ非ズ又經濟上ノ見地ヨリスルモ獎勵スベキ事ニモ非ズ又該計畫ノ如ク相互主義ニ基ク組織ハ投機的性質ヲ有シ從テ多クノ負擔ヲ有スル家屋ヲ目的トスル場合ニハ順潮ノ發達ヲ期スベクモアラザルベシ又如何ニ慎重ニシテ細心ナル鑑定方法ニ據ルモ土地貸付業務ニ離ルベカラザル危險ヲ防止スルコト能ハザルヲ以テ此等ノ損害ニ對シ相當ノ資金ヲ準備セザルベカラザルベシ

上記ノ計畫ト全ク別個ノ主義ノ上ニ立ツモノハ二三都市ニ於テ既ニ實行シツ、アル制度ニシテ都市自ラ其資金ヲ貸付ケ而シテ不動産抵當ト關係ナキ債券ヲ發行スル制度ナリ此制度ハ從來「ドレステン」及「ヂツセルドルフ」ニ於テ實行セラレタルモノニシテ其効力ニ至リテハ性質上一地方ニ限ラレ其重要ナル目的ハ住居家屋ノ不足ヲ補ハンガ爲メニスルモノニシテ未ダ重要ナル

價值ヲ認メラル、ニ至ラズ又近時普魯西ニ於テ其聲ヲ高クスルニ至リタルモノハ土地信用制度ヲ國家直營トナサントスル議論ナリ

此議論ハ普魯西國ニ在テハ新シキ議論ニ非ズ既ニ土地抵當銀行ガ隆盛ヲ極ムル前六十年代ニ於テ生ジタルモノナリ當時此組織ハ實行ニ堪エザルモノトシテ排斥セラレタリ普魯西中央土地抵當銀行ガ千八百七十年ニ設立セラレタルモ其目的此國立土地抵當銀行設立ノ準備タルニアリタルモノナルモ政治上及經濟上ノ事情ハ此目的ヲ拋棄セシムルコト、ナレリ但此議論ハ二三ノ北部及中部獨逸聯邦ニ於テ農業信用ニ關シ國立土地抵當貸付局ノ設立ニ依テ實行セラレ良好ノ成績ヲ擧ゲツ、アリ

土地金融組織ヲ獨占的タラシメントスル考案モ從來行ハレタル一種ノ方法ナリ然ドモ此方法ハ種々ナル反對ニヨリ未ダ實行ヲ見ズ最モ極端ナル論者ニ從ヘバ抵當權ヲ取得シテ爲ス貸付ヲ國家或ハ特ニ國家ニヨリ獨占的ニ許可セラレタル機關ニノミ許シ之ト同時ニ個人資本ノ不動產信用ニ關係スル

コトヲ全ク排除セントスルニアリ然ドモ斯ノ如キハ言ヒ得ベクシテ行ヒ難キ議論ニシテ單ニ社會主義者ノ空想タルニ過ギズ之ヲ眞面目ニ議論スルノ必要ナカルベシ況ンヤ負債ノ額ヲ法律ヲ以テ制限シ又ハ償却ニ付テモ法律ノ干涉ヲ爲サントスルガ如キニ至リテハ經濟生活ニ大障害ヲ惹起スルモノトシテ何人モ贊成スルモノナカルベシ又斯ノ如ク極端ニ走ラス或制限ノ下ニ都市ニ於ケル土地ニ對スル金融ヲ獨占的ナラシメントスル論者アリ此論者ハ國家的金融獨占ヲ主張シ土地ニ關スル個人的金融ヲ排除セントスルモノニ非ズシテ確實ト信ゼラルベキ債券ノ改良ヲ爲サントスルニ在リ然ドモ是等モ唯議論トシテ存在スルノミニテ獨逸今日ノ組織ニ於テ其實行ヲ見ルコト至難ナルベシ

最後ニ記述スベキハ「ヘツセン」土地抵當銀行ナリトス此組織ハ既ニ述ベタルガ如ク國家的組織ト株式組織トヲ併セ有シ「デニス」教授ノ勞働者住屋融通所ノ設立ニ關スル意見ニ基キタルモノナリト云フ其發達及定款營業振等ハ全

九五八
ク一般土地抵當銀行ノ埒外ニ出デ土地金融組織ノ最進歩シタル典型ト見ル
ヲ得ベキガ如シ

附 錄

債券所有者共同權ニ關スル法律

(千八百九十九年十二月四日帝國法律官報第四十七號)

第一條 內國ニ於テ住所若クハ營業所ヲ有スル者ガ內國ニ於テ豫メ一定セ
ル額面價格ヲ有シ額面價格ノ關係ニ從テ債權者ニ同等ナル權利ヲ與ヘ且
其總額面ガ三十萬馬克以上枚數三百以上ナル債券ヲ發行シタル場合ニ於
テハ共同利益保持ノ爲メ債券所有者集會ノ爲シタル決議ハ本法ニ據リ當
該種類ノ全債權者ヲ拘束ス
債權者集會ハ債權者ノ權利保持ノ爲メ共同代表者ヲ任命スルコトヲ得
債權者集會ハ其決議ニ據リ債權者ニ給付ヲ爲スベキ義務ヲ負擔セシムコ
トヲ得ズ

第二條 流通債券總額ガ十萬馬克以下若クハ流通債券枚數ガ百以下ニ降リ

附 錄

タルトキハ債務者ハ遲滞ナク獨逸帝國官報ニ其旨ヲ公告スベキモノトス
前項ノ公告アリタルトキハ其翌日ヨリ債權者集會ハ本法ニ據リ之ヲ開催
スルコトヲ得ザルモノトス債權者集會ノ任命シタル代表者ノ職務モ此時
期ヲ以テ消滅ス

第三條 集會ハ債務者之ヲ招集ス

集會ハ流通債券總額ノ二十分ノ一以上ノ債券所有者若クハ債權者集會ノ
任命シタル代表者ヨリ其目的及理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ招集ノ請求
アリタルトキハ之ヲ招集スベキモノトス

招集及開催ノ費用ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外債務者ノ負擔トス

第四條 第三條第二項ノ請求アリタルニ拘ラズ集會ヲ招集セザル場合ニ於
テハ其管轄區内ニ債務者ノ住所若クハ營業所アル區裁判所ハ請求者ニ集
會招集ノ權利ヲ附與スルコトヲ得請求アリタルトキニ於テ債務者ガ内國
ニ住所モ營業所ヲモ有セザル場合ニ在テハ其管轄區内ニ債務者ガ最後ニ

住所若クハ營業所ヲ有シタル區裁判所ノ管轄トス

債權者ハ集會招集ノ請求ヲ爲サントスルニハ債券ヲ帝國銀行公證人若ク
ハ其他聯邦政府ノ認メタル場所ニ供托スベキモノトス
請求者ヲシテ債權者集會ノ招集ヲ爲サシムル場合ニ在テハ裁判所ハ同時
ニ集會ニ於ケル議長ニ就キ規定スルコトヲ得裁判所ハ招集ノ請求招集及
開催ノ費用ヲ請求者若クハ債務者ノ何レニ負擔セシムベキヤヲ決スルモ
ノトス

裁判所ハ債權者集會招集權ノ附與若クハ費用負擔ヲ決スル處分ヲ爲ス以
前ニ可成債務者及債權者ノ代表者アル場合ニハ其者ヲ尋問スベキモノト
ス處分ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五條 債務者ノ營業が國家ノ監督下ニ在ル場合ニ於テハ裁判所ハ第四
條第四項ノ處分ヲ爲ス以前又監督官廳ハ意見ヲ聽取スベキモノトス
監督官廳ハ債務者ノ費用ヲ以テ集會ヲ招集シ若クハ債務者ヲシテ招集ヲ

爲サシムルコトヲ命ズルコトヲ得

第六條 債權者集會ヲ招集セントスルニハ二回以上帝國官報及其他第四條ノ裁判所管轄區内ニ於テ商業登記簿ニ於ケル登記事項ヲ公告スル新聞紙ニ公告スベキモノトス債務者ガ株式會社株式合資會社若クハ登記組合ナル場合ニハ會社若クハ組合ノ公告スベキ新聞紙ヲ以テ之ニ代ユルコトヲ得

最後ノ公告ト集會日トノ間ハ第十條第二項ニ據ル債券供托ノ爲メ少クトモ二週間ヲ存セザルベカラズ

第四條ノ場合ニ在テハ招集ニ際シ裁判上ノ授權アリシコトヲ明ニセザルベカラズ

第七條 招集ニ際シテハ集會ノ目的ヲ明示セザルベカラズ各債權者ハ請求書ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得

第六條第一項第二項ニ從ヒ其主要ナル内容ガ通知セラレザル事項ニ就テ

ハ決議ヲ爲スコトヲ得ズ

第三條第四條第五項第一項第二項及第六條第三項ノ規定ハ集會ノ決議事項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第八條 集會ノ始メニ際シ出席シタル債權者若クハ其代表者ノ名簿ヲ調製シ姓名住所並ニ各自代表セル債券額ヲ記入スベキモノトス名簿ハ作成後直ニ遅クトモ第一ノ投票後之ヲ閱覽ニ供セザルベカラズ議長ハ名簿ニ署名スベキモノトス

第九條 集會ノ決議ハ集會ニ關スル裁判上若クハ公正ノ議事録ヲ作成シ之ニ記載シテ證書ト爲スニアラザレバ其効力ヲ有セザルモノトス

議事録ニハ集會ノ場所月日判事若クハ公證人ノ姓名並ニ決議ノ方法及結果ヲ記載スベキモノトス

第八條ニ從ヒ作成セル集會出席者名簿並ニ集會定時招集ニ關スル書類ハ之ヲ議事録ニ添付スベシ但招集ニ關スル書類ハ其内容ノ記載ヲ以テ議事

録中ニ引用セラレタル場合ニ於テハ之ヲ添付セザルコトヲ得ルモノトス
議事録ハ判事若クハ公證人ニ依リ完結セシメラレザルベカラズ但證人ヲ
立ツルヲ必要トセズ

第十條 決議ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外票決權ノ多數ニ據ル多數ハ
債券ノ額ニ據リ之ヲ計算ス投票同數ナル場合ニハ債權者ノ數ニ據ル
前項ノ場合ニ在テハ遅クトモ集會二日前所有債券ヲ帝國銀行公證人若ク
ハ聯邦政府人認メタル場所ニ供托シタル債權者ノ投票ノミヲ計算ス
投票權ハ代理人ヲ以テ之ヲ行フ事ヲ得代理ニ付テハ書面上ノ形式ヲ必要
トシ且之ヲ以テ足ルモノトス
債務者ハ其所有スル債券ニ付投票權ヲ有セザルモノトス債務者ガ債券上
ニ質權若クハ留置權ヲ有スル場合ニ在テハ所有者ノ請求ニ從ヒ債券ヲ第
二項ノ供托所ニ供托シ以テ自己ノ有スル質權若クハ留置權ノ存續ヲ害セ
ズ所有者ヲシテ投票權ノ實行ヲ得セシムルガ如ク爲サルベカラズ此場

合ニ於テハ供托ノ費用ハ所有者之ヲ負擔シ且之ヲ前拂セザルベカラズ
第十一條 債權者集會ノ決議ニ據リ債權者ノ權利ノ拋棄若クハ制限殊ニ利
子ノ輕減若クハ延期ノ承諾ヲ爲サントスルニハ之ニ因リ債務者ノ支拂停
止若クハ破産ノ避ケ得ラルベキ場合ニ限ルモノトス
債權者ノ權利ノ拋棄若クハ之ヲ制限スベキ決議ハ票決權ノ四分ノ三以上
ノ多數ヲ必要トス多數ハ流通債券ノ額面ノ半額及債券總額ガ千二百萬馬
克以下ナル場合ニハ額面ノ三分ノ二以上流通債券ノ額面ガ千二百萬馬
以上千八百萬馬克以下ナル場合ニハ八百萬馬克ニ達セザルベカラズ
前項ノ場合ニ於テ流通債券額面ノ計算ニ當テハ債務者ノ所有ニ係リ第十
條第四項ニ據リ投票權ノ禁止セラレタル債券ハ之ヲ計算中ニ加フベカラ
ザルモノトス

債務者ハ債權者集會ニ於テ流通セル投票權アル債券額ニ付報告スベキ義
務アルモノトス

第十二條 第十一條所掲ノ決議ハ總債權者ニ對シ均等ナル條件ヲ決セザルベカラズ不均等ナル條件ヲ確定セントスルニハ不利ナル地位ニアル債權者ノ明示的ノ承諾ヲ要ス

債權者ト債務者若クハ第三者間ノ合意ニシテ其債權者ノミニ好都合ナルベキモノハ無効トス各個債權者ニ好都合ナルベキ爲メニ成立セル決議ハ其他ノ債權者ニ對シ拘束力ヲ有セズ

債務者ハ第六條第一項所定ノ方法ニ據リ決議ヲ公告スベキモノトス
債券額而價格ニ相當スル元本請求權ハ集會ノ決議ヲ以テ之ヲ拋棄スルコトヲ得ザルモノトス

第十三條 債務者ノ營業ガ國家ノ監督ノ下ニ在ル場合ニ於テハ第十條所定ノ決議ハ監督官廳ノ認可ヲ要ス
監督官廳ハ認可ノ許否ヲ公告スベシ

第十四條 集會ハ債權者ノ代表者ヲ任命シタルトキハ同時ニ其權限ヲ定ム

ベキモノトス

代表者ガ債權者ノ權利ヲ主張スベキ權限ヲ有スル場合ニ在テハ債權者集會ノ決議ニ據リ各個債權者ノ獨立シテ權利ヲ主張スルコトヲ禁ズルコトヲ得ルモノトス

決議ニ付テハ第十一條第二項乃至第四項及第十二條第十三條ノ規定ヲ適用ス

代表者ガ債權者ノ權利ヲ拋棄シ得ルニハ各個ノ場合ニ付特ニ授權スベキ債權者集會ノ決議ニ基カザルベカラズ此決議ニ付テハ第十一條及第十三條ヲ適用ス

代表者ハ債權者共同利益ノ爲メ訴訟ヲ爲ス場合ニ在テハ法定代理人ノ地位ヲ有ス債權者ノ負擔タルベキ訴訟費用ハ債務者之ヲ負擔ス但債權者ニ對シテ求償スルヲ妨ケズ

多數ノ代表者アル場合ニ於テハ別段ノ規定アル場合ノ外共同シテノミ權

附 錄

利ヲ實行スルコトヲ得

債權者集會ハ隨時代表者ヲ解任スルコトヲ得但代表者ハ契約上ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス決議ハ票決權ノ四分ノ三ノ多數ヲ要ス多數ハ代表者ガ専ラ第二項ニ據リ債權者權利ノ主張ヲ爲スベキ權利ヲ有スル場合ニ於テハ流通債券額面價格ノ半額以上ナラザルベカラズ此場合ニ於テハ第十一條第三項第四項及第十二條第二項ノ規定ヲ適用ス

第十五條 債務者ガ會社若クハ法人ニシテ其社員ガ總會ニ於テ決議ヲ爲スモノニ在テハ本法ニ據リ任命セラレタル各代表者ハ社員總會ニ出席シ且商議ニ參加スル權利ヲ有ス
社員總會ノ議事若クハ會社資本狀態若クハ營業ニ付法律定款等ニ從ヒ社員ニ報告スベキ場合ニハ之ト同様ナル方法ニ據リ又債權者ノ代表者ニ對シテモ之ヲ報告スベキモノトス

第十六條 民法第千八百八十九條若クハ債券發行ニ際シ有効ニ設ケラレタル

規定ニ遵據シテ任命セラレタル代表者ノ權利義務ハ本法ニ據ル代表者ノ任命ニヨリ何等影響ヲ受クルコトナシ

第三條及第七條第三項ノ規定ニ從ヒ集會招集及決議事項通知ニ關スル債權者集會ノ任命セル代表者ノ權利ハ第三項ニ據ル代表者モ亦之ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス

流通債券總額ノ五分ノ一以上ニ當ル債券所有者ノ請求ニヨリ重要ナル理由アルトキハ裁判所ハ代表者ヲ解任スルコトヲ得管轄ハ第四條所掲ノ區裁判所トス裁判所ハ請求ヲ決定スル處分前可成代表者及債務者ヲ尋問スベシ處分ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第十七條 民法施行前債券所有者ノ爲メ舊法ニ從ヒ任命セラレタル代表者若クハ民法施行後不動産登記簿ノ制定セラレタルモノト看做サルベキ時期迄ニ聯邦法ニ從ヒ抵當權登記簿若クハ之ニ類似セル帳簿ニ登記スルコトニ因テ任命セラル、代表者ニ對シテモ亦第十六條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ代表者ハ不動産登記法第四十四條第二項ノ意味ニ於テ民法第千百八十九條ニ據リ任命セラレタル代表者ニ同ジ債權者集會ニヨリ任命セラレタル代表者ニ就キ亦同ジ

第十八條 債務者ノ財産ニ就キ破産ガ開始シタル場合ニ於テハ第一條記載ノ債權者集會ニ關シ次ノ特別規定ヲ適用ス

集會ハ破産裁判所之ヲ招集シ且指揮ス

破産手續ニ於ケル共同代表者ノ任命ノ爲メ破産開始後遲滞ナク債權者集會ヲ招集スベシ集會ガ既ニ斯ル代表者任命ニ關スル決議ヲ爲シタルトキハ招集ヲ爲ササルコトヲ得

破産裁判所ハ第三條第二項ノ場合ノ外破産管財人破産債權者ノ委員若クハ監督官廳ヨリ請求アルトキハ債權者集會ヲ招集セザルベカラズ
債權者ガ債券ヲ供托スベキ場所ハ破産裁判所之ヲ定ム

第五條第一項第二項第十一條第一項第十二條第三項及第十三條ノ規定ハ

此場合ニ適用セズ

第十九條 破産ノ場合ニ於テ債券ヨリ生ズル債權ガ債權者集會ノ任命シタル債權者ニ依リ申告セラレタルトキハ之ニ債券ノ添付ヲ必要トセズ

配當ニ際シ債券ニ割當ラル、金額ノ受領ニ付テハ債券ノ提出ヲ必要トス金額ノ受領ニ付テハ第十四條第二項ノ規定ヲ適用セズ

第二十條 本法ニ據リ債權者集會及債權者ノ代表者ニ附與セラレタル權利ハ債券ニ於ケル規定ニ據リ之ヲ禁止シ若クハ制限スルコトヲ得ズ

第二十一條 債務者所有ノ債券ヲ第十條第四項ノ規定ニ違反シテ債務者ニ代リ投票權ヲ實行スベキ目的ヲ以テ他人ニ讓渡シタルモノハ一年以下ノ禁錮及五千馬克以下ノ罰金ニ處ス債券ヲ上記ノ目的ニ使用シタル者亦同ジ

酌量スベキ事情アル場合ニハ罰金ノミヲ課スルコトヲ得

第二十二條 第二條ニ從ヒ發布スベキ公告若クハ第十一條第四項ニ從ヒ債

債權者集會ニ於テ爲スベキ報告ニ於テ當該規定ニ據リ報告スベキ義務アル事實ニ就キ故意ニ不實ノ記載ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ禁錮若クハ三千馬克以下ノ罰金ニ處ス

第二條ニ從ヒ公告ヲ爲スベキ義務アル者之ヲ爲サザルトキハ千馬克以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 債權者集會ニ於ケル投票ニ際シ一定ノ意味ニ於テ投票シ若クハ債權者集會ニ於ケル投票ニ當リ參加セザルコトニ對シ特別ナル利益ヲ與ヘシメ若クハ約束セシムルモノハ三千馬克以下ノ罰金若クハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

債權者集會ニ於ケル投票ニ際シ一定ノ意味ニ於テ投票シ若クハ債權者集會ニ於ケル投票ニ當リ參加セザルコトニ對シ特別ナル利益ヲ與ヘ若クハ約束スル者亦同ジ

第二十四條 帝國聯邦若クハ公法上ノ團體ノ債券ニ對シテハ本法ヲ適用セ

ズ但聯邦法ハ本法ヲ公法上ノ團體ノ債券ニ對シ之ヲ適用スベキコトヲ規定スルコトヲ得

第二十五條 債權者ガ統一的軌道ノ構成部分ヨリ別除的満足ヲ得ベキ手續ニ就キ鐵道若クハ輕便鐵道質權者ノ集會及代表ニ關スル聯邦法ノ規定ハ

本法ニヨリ何等影響ヲ受ケザルモノトス

第二十六條 本法ハ民法ト同時ニ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前既ニ發行セラレタル債券ニモ亦之ヲ適用ス

大正四年四月五日印刷
大正四年四月八日發行

(非賣品)

北海道拓殖銀行

編纂者兼
發行者

星

野

米

北海道札幌區大通
西三丁目七番地

印刷者

小

林

武

之

助

東京市日本橋區
兜町二番地

發行所

東京印刷株式會社

東京市日本橋區
兜町二番地

終